シチズングループ CSR報告書2009

【特集】

シチズングループの
地球と人にやさしいものづくり
～光発電時計エコ・ドライブがお客様に届くまで～

【トップメッセージ】

未来の変化に対応できる
人と組織をつくる

シチズン ホールディングス株式会社

●お問い合わせ先
シチズンホールディングス株式会社 監査･CSR室
〒188-8511
東京都西東京市田無町6-1-12
TEL 042-468-4776
FAX 042-466-1280
シチズンWEBサイト　http://www.citizen.co.jp/

2009年6月発行

この報告書は、環境･社会･経済のすべての側面を配慮して適切に管理された森林からの木材を使用していることを示す、FSC認証紙を使用しています。
また、印刷には、現像液を使うフィルムが不要で環境負荷低減につながるCTP印刷と有害な廃液を排出しない水なし印刷を採用しています。
さらに、生分解性や脱墨性に優れ、印刷物のリサイクルが容易な大豆インキを使用しています。

シチズンは、「市民に愛され市民に貢献する」企業グループとして“全員参加型CSR”をめざします。

世界各地のシチズングループ従業員に聞きました。
あなたにとって「CSR」とは？

編集方針

CSR報告書2009は、シチズングループの事業概要および社会的責任に関する考え方や取り組みをステークホルダーの皆様にわかりやすくお伝えするものです。

特集ページでは環境配慮型製品「光発電時計エコ・ドライブがお客様に届くまで」を事業活動に携わる従業員のもつ思いを込めて取り上げました。CSRを担う従業員の顔が見える「全員参加型CSR」の取り組みが実感できるように表現しました。

本文では、CSR観点からの各活動の考え方、体制、活動実績を報告しています。今年度はグループ会社に関する活動事例を昨年よりさらに増やしました。

本報告書は当社のCSR活動を広く社会に報告するとともに、シチズングループ従業員一人ひとりがCSR活動の現状を理解し、それぞれの職務を通じて実践していけるよう従業員へのメッセージとしました。

昨年の第三者意見への対応

2008年度に五代様と秋山様からご指摘のありました「PD（計画・実行）の報告のみにとどまりCA（検証・改善）につながっていない」、「取り組み状況を分かりやすくするため、目標と達成結果を一覧表で見やすく掲示すること」に対し、各社の「CSR活動の目標と取り組み状況」を掲載するとともに、取り組み内容の詳細については事例紹介を多く掲載しました。

また「グローバル企業として海外での課題や取り組み状況の情報が少ない」というご指摘についても、中国拠点にてCSRミーティングを開催し、各拠点の実情を把握し今後の進め方を検討しました。

報告対象と報告範囲

経済データ・社会データ：
国内外シチズングループ（計85社）
環境データ：
国内外シチズングループ（計41社）

報告期間

2008年度
（2008年4月1日～2009年3月31日）
ただし、一部2009年度の内容を含みます。

参考にしたガイドライン

「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン2006」（GRI）
「環境報告ガイドライン（2007年版）」（環境省）
「環境会計ガイドライン（2005年版）」（環境省）

WEBサイトとの連動について

本報告書に掲載しきれなかった情報については、WEBマークを付記し、下記のWEBサイトにて開示しています。

CSR報告WEB版
日本語版
http://www.citizen.co.jp/social/index.html
英語版
http://www.citizen.co.jp/english/csr/index.html

CONTENTS

編集方針 …… 2
シチズングループについて …… 3
シチズンの製品・技術はこんなところに使われています …… 5
トップメッセージ …… 7
未来の変化に対応できる人と組織をつくる

特 集
シチズングループの地球と人にやさしいものづくり …… 9
光発電時計エコ・ドライブがお客様に届くまで …… 11

CSRの基盤
シチズングループのCSR …… 15
コーポレートガバナンス …… 19
コンプライアンス …… 21
リスクマネジメント …… 22

社会とシチズン
お客様とシチズン …… 23
株主・投資家とシチズン …… 26
お取引先とシチズン …… 27
従業員とシチズン …… 28
地域社会とシチズン …… 31

環境とシチズン
シチズングループの環境経営 …… 33
環境マネジメント …… 35
事業活動と環境負荷 …… 37
環境配慮型製品の充実 …… 39
有害化学物質の削減 …… 40
地球温暖化ガスの削減 …… 41
資源の有効活用と廃棄物の削減 …… 42

第三者意見 …… 43
WEB掲載情報 …… 44

発行時期

2009年6月（前回発行2008年6月、次回発行予定2010年6月）

世界をリードする小型化・精密技術で人々の期待や憧れを実現　する確かな価値を提案し続けます。

　シチズングループは、「市民に愛され市民に貢献する」を企業理念に、時計事業で培ってきた超小型技術・超精密技術・低消費電力技術などを活かした多彩な事業をグローバルに展開しています。

　"技術と美の融合"をコンセプトに多彩な商品を創造する時計事業、パソコンやエレクトロニクス機器に不可欠な部品を提供する電子デバイス事業、プリンターや健康機器を提供する電子機器製品事業、ミクロンの精度で部品を高速加工する産業用機械事業——これらすべての事業と製品にシチズンの「Micro HumanTech」が息づいています。

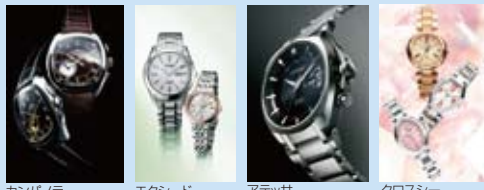
時計事業

　"技術と美の融合"。それは、最新のテクノロジーと繊細な美しさが溶け合うことで生まれる新しい価値。シチズンブランドウオッチでは、このテーマのもと、人の暮らしを彩るさまざまな製品を送り出してきました。その一方、ウオッチの未来にも目を向け、情報端末としての新しいスタイルも探りはじめています。

カンパノラ

エクシード

アテッサ

クロスシー

電子デバイス事業

　通信機器の小型化・高性能化によって、低消費電力と高い信頼性を兼ね備えた精密技術が求められています。電子デバイス事業では、シチズンのDNAを受け継ぐ超小型・超精密組み立て技術や、時計で培った水晶振動子技術などをベースとして、情報化社会を支えるさまざまな事業や機器に、デバイス製品を提供しています。

LED照明を使用したロビー

- CITIZEN (SHANGHAI) TRADING CO., LTD.【西鉄城(上海)貿易有限公司】
- CITIZEN WATCH (CHINA) CO., LTD.【西鉄城(中国)鐘表有限公司】
- CITIZEN WATCHES (H.K.) LTD.【星辰表(香港)有限公司】
- CITIZEN WATCHES (MALAYSIA) SDN.BHD.
- ASTAR PRECISION CO., LTD.【冠星精密有限公司】
- FARBEST INDUSTRIES LTD.【卓榮工業有限公司】
- GOODRINGTON CO., LTD.【冠利製造廠有限公司】
- ROYAL TIME CITI CO., LTD.
- SHIANG PAO PRECISION CO., LTDPTE.【香寶精密股份有限公司】
- SUNCITI MANUFACTURERS LTD.【新星工業有限公司】
- CITIZEN WATCHES (INDIA)PVT LTD.
- CITIZEN ELECTRONICS (CHINA) CO., LTD.【西鉄城電子貿易(上海)有限公司】
- CITIZEN ELECTRONICS (NANJING) CO., LTD.【西鉄城電子(南京)有限公司】
- CITIZEN ELECTRONICS (SUZHOU) CO., LTD.【西鉄城電子(蘇州)有限公司】
- C-E (HONG KONG) LTD.【西鉄城電子(香港)有限公司】
- C-E (SINGAPORE)PTE. LTD.
- FIRSTCOME ELECTRONICS LTD.【首軒電子有限公司】
- XUNKE ELECTRONICS LTD.【訊科電子有限公司】
- MOST CROWN INDUSTRIES LTD.【務冠実業有限公司】
- CITIZEN SYSTEMS (H.K.) LTD.【西鉄城精電科技(香港)有限公司】
- CITIZEN MACHINERY ASIA CO., LTD.
- MIYANO MACHINERY PHILIPPINES INC.
- MIYANO PHILIPPINES INC.
- MIYANO MACHINERY THAILAND CO., LTD.
- MIYANO MACHINERY SHANGHAI CO., LTD.
- MIYANO MACHINERY ASIA CO., LTD.
- WALOP LTD.【莱合有限公司】

- シチズン時計(株)
- シチズン電子(株)
- シチズンファインテックミヨタ(株)
- シチズン・システムズ(株)
- シチズンマシナリー(株)
- シチズンセイミツ(株)
- シチズン狭山(株)
- シチズンビジネスエキスパート(株)
- シチズン・フィナンシャル・サービス(株)
- シチズン宝飾(株)
- シチズンプラザ(株)
- (株)東京美術
- シチズン平和時計(株)
- シチズン東北(株)
- シチズンTIC(株)
- シチズン埼玉(株)
- (株)栄商会
- (株)オンタイム
- シチズン電子船引(株)
- シチズン電子タイメル(株)
- シチズン電子八戸(株)
- (株)ミヤノ
- (株)ミヤノ・サービス・エンジニアリング
- シチズンセイミツ鹿児島(株)
- (株)フジミ
- シチズン夕張(株)
- シルバー電研(株)
- シルバー企画(株)

- CITIZEN DE MEXICO, S.A. DE C.V.
- CITIZEN LATINAMERICA CORP.
- CITIZEN WATCH CO.OF AMERICA, INC.
- CITIZEN WATCH CO.OF CANADA LTD.
- CITIZEN WATCH DO BRASIL S.A.
- CITIZEN WATCHES AUSTRALIA PTY LTD.
- BULOVA CORPORATION
- ART OF TIME, INC.
- BULOVA DE MEXICO,S.DE R. L. DE C. V.
- BULOVA WATCH CO., LTD.
- BULOVA WATCH COMPANY, INC.
- BWI DE MEXICO, S. DE R. L. DE C.V
- WESTFIELD LICENSING COMPANY
- CECOL, INC.
- CITIZEN SYSTEMS AMERICA CORP.
- MIYANO MACHINERY USA INC.

- CITIZEN WATCH ESPAÑA S.A.
- CITIZEN WATCH EUROPE GMBH
- CITIZEN WATCH ITALY S.P.A.
- CITIZEN WATCH UNITED KINGDOM, LTD.
- BULOVA SWISS S.A.
- C-E (DEUTSCHLAND) GMBH
- CITIZEN SYSTEMS EUROPE GMBH
- CITIZEN MACHINERY EUROPE GMBH
- MIYANO MACHINERY EUROPE GMBH
- MIYANO MACHINERY UK LTD.

電子機器製品事業

　ウオッチ技術の蓄積から生まれた小型・精密・低消費電力のテクノロジーは、さまざまなビジネスの現場で使われる業務用プリンターや電子機器に活かされています。すべての人にやさしく使いやすいユニバーサルデザインの思想をいち早く取り入れ、また、電子体温計や電子血圧計などの健康機器ビジネスでは、ドクターと一人ひとりをつなぐネットワーク化に取り組んでいます。

ラインサーマル・ラベルプリンター

ラインサーマル・レシートプリンター

デジタル歩数計

電子辞書〈MOBIDICT〉

手首式電子血圧計

産業用機械事業

　時計生産のための設備機械を自社で開発してきたノウハウや技術を活用し、「削る」、「組む」、「測る」の生産に必要な産業用機器を開発し提供してきました。ものをつくることに喜びを覚え、つくられたものが感動を呼ぶような、共感の連鎖こそ製造業を豊かにしていくと考えています。これを「感動価値」生産と名付け、事業活動の中で大切にしています。

CNC自動旋盤
ギヤードモーター
デジメトロン（精密計測機器）

多角化事業

　小型精密加工技術、組み立て技術、表面処理技術、実装技術を縦横に応用して、自動車の安全を守る部品、医療現場や半導体装置で使われる精密制御コンポーネント、アミューズメント機器のシステムなどを独自に展開。マリッジリングなどの宝飾、アイススケート、ボウリングなどのレジャーサービスも手がけます。

自動車部品

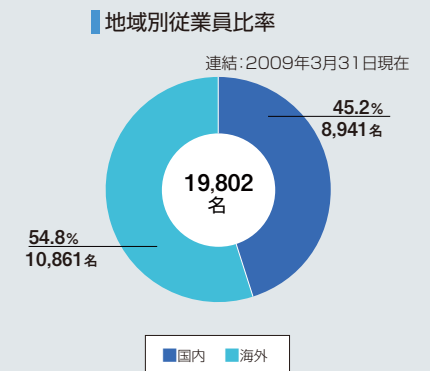
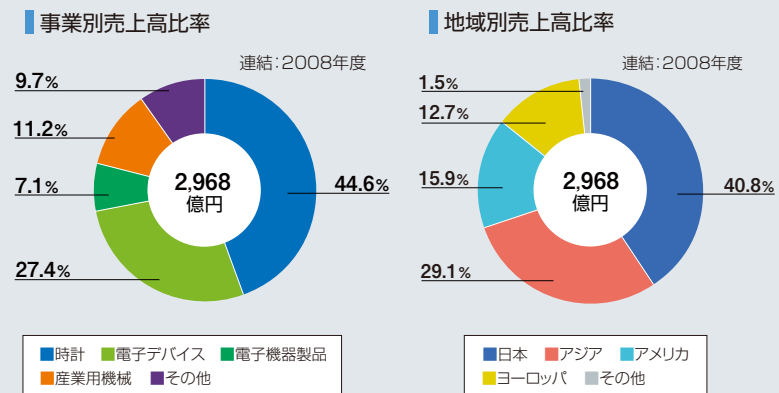
マリッジリング

ボウリング場

会社概要

社名	シチズンホールディングス株式会社
設立	1930年5月28日
本社所在地	〒188-8511 東京都西東京市田無町6-1-12
代表者	代表取締役社長　金森 充行
資本金	326億4,889万円(2009年3月31日現在)
従業員数	19,802名(連結:2009年3月31日現在)
売上高	2,968億円(連結:2008年度)
上場	東京証券取引所第一部

事業別売上高比率
地域別売上高比率

地域別従業員比率

シチズングループ事業の歩み

年月	出来事
1918 3月	シチズン時計の前身、尚工舎時計研究所創立
1930 5月	シチズン時計株式会社創立
1949 6月	シチズン商事株式会社設立
1958 1月	中国へ腕時計輸出開始
1964 12月	シチズン事務機設立
1971 6月	精機事業部発足
1978 2月	東京 新宿三井ビルに本社を移転
1981 10月	情報機器事業部発足
1992 2月	ドイツ工作機械メーカーボーライ社買収
1996 4月	光発電 エコ・ドライブウオッチで初めて「エコマーク」取得
2001 3月	西東京市に本社を移転
2005 4月	シチズン・システムズ株式会社、シチズン・ディスプレイズ株式会社設立
2006 3月	研究開発棟を新設
2007 4月	シチズンホールディングスを中心とした純粋持株会社体制へ移行
2008 4月	金森充行社長就任

シチズンの製品・技術はこんなところに使われています

シチズンは多岐にわたる事業で社会とつながっています。
暮らしの中の見えないところでもシチズンの製品・サービスが活躍しています。

自動車用部品
ABS・エンジン部品などを製造。

LEDバックライト・ユニット（カーナビ）
カーナビの薄型化、省エネに貢献。

レジャー施設
都内でボウリング場とアイススケートリンクを営業。

燃焼圧センサー（船舶）
エンジンシリンダ内に搭載し燃焼圧力を測定。

設備時計
建物の外観と一体になり地域のシンボルとして愛されている時計。

マリッジリング
キズつきにくく変形しにくい指輪。

HDD用ガラス基板（ノートパソコン）
時計ガラス研磨・切削加工技術を応用。

セラミックス部品（光通信部品）
光ファイバーケーブルのコネクタ接続部に使用。

体温計・血圧計
見やすい表示、簡単に使える設計。

ガスセンサー（給湯器）
一酸化炭素の漏れを検出。

高信頼性LCD（ガスメーター）
高温、高湿下での使用に耐えられる仕様。

水晶振動子（TV・VTR・家電製品全般）
電子機器を正常に動作させるための基準信号。

電子辞書
国語・カタカナ語、英和・和英辞書をはじめ医学・健康知識も収録。

腕時計（光発電 エコ・ドライブ）
1996年に腕時計で初めて「エコマーク」商品に認定。

歩数計
パソコンにつなげてデータ管理。健康の維持・増進を応援。

LED（照明用）
低消費電力で長寿命。水銀レスで環境にやさしい光源。

ジャイロセンサー（デジタルカメラ）
高精度手ブレ補正機能。

LCOS※（ハイズームデジタルカメラ）
ビューファインダーに使用。光学式に比べ、コンパクト・薄型化を実現。

小型スイッチ（デジタルカメラ）
シャッタースイッチなどに使用。

LED（携帯電話）
携帯電話のキー照明や、フラッシュ、バックライトに使用。

水晶振動子（携帯電話）
途切れない会話のための電波の送受信に必須。

マラソン計時装置
磁気反転方式で見やすい表示、マラソン中継には欠かせない時計です。

ビューファインダー（TV局の撮影用ビデオカメラ）
スポーツの速い動きにも対応できる高解像度のビューファインダー。

薄膜サブマウント（ブルーレイディスクレコーダー）
放熱性の高いセラミックス基板。

光ディスク用液晶素子（ブルーレイディスクレコーダー）
ディスクの読み書きの高性能化に貢献。

工作機械
金属の材料を削って高精度部品をつくり出す機械。

軟物質硬度計
軟らかいものの硬度を計測。

計測機器
小さな部品を正確に計測。

コアレスモーター・ギヤヘッド・エンコーダー
ロボットの関節部などに使用。

LCOS※（プロジェクター）
映像エンジンに使用。高精細・高画質を実現。

POSサーマルプリンター
レシートやクーポン・チケット券の発行に使用。

フォトプリンター
スーパーや写真屋で手軽に写真印刷。

メモリー性液晶（電子棚札）
電源を切っても表示が維持され、超低消費電力を実現。

※Liquid Crystal on Siliconの略。シリコン基板を使用した液晶表示パネル。

未来の変化に対応できる人と組織をつくる

―世界的な不況のなかでのシチズングループの対応は

世界各国の需要が急激に縮小し、特に輸出比率の高い製造業にとってはこれまで経験したことのない最悪の経済環境になっています。シチズングループにおいても2008年度は業績の急激な悪化を余儀なくされました。

世の中の動きの変化はスピーディーにかつダイナミックになっており、企業が存続と繁栄するためには、あらゆる変化に対応するための強い体質／体制が求められています。つまりこれからも起こるであろう環境変化に対応できる強い体質を再構築できた企業にこそ、新しい環境での繁栄が待っているはずです。私は、今回の不況によってシチズングループがエクセレントカンパニーに生まれ変わるチャンスが来ているのだと思っています。

―シチズングループのCSRと事業活動の関わりは

シチズングループは「市民に愛され市民に貢献する」という企業理念のもとに、地球と人にやさしい製品を提供することをめざしています。企業が社会的責任を果たすには、正しい事業活動によって適正な利益を得ることが必要です。そして収益力を高めることによって、さまざまなステークホルダーに報いること、地域社会、地球環境への貢献も可能となります。従って継続的に利益を上げられる体質をつくることがCSRを実践するための基礎となります。その上で、企業価値の向上とステークホルダーの願いを合致させていくことがシチズングループのCSRと考えています。

シチズングループは時計事業からスタートし、時計の設計開発・製造・販売・サービスを一貫して行ってきました。この時計作りで培った技術とノウハウを基盤として、電子デバイス事業や電子機器製品事業、産業用機械事業を展開しています。これらの事業に共通するのは、精密という極限のものづくりを追求するシチズンのDNAです。精密の本質は、小さく、薄く、精度が高いこと。この3つが私たちの強みと考えています。

こうしたコンパクト化の技術はあらゆるものに求められており、未来商品の出現に伴ったニーズは無限にあるといえます。これからの社会において必要な場所で必要な時に必要なものを提供するために、シチズンのコア技術であり「Micro HumanTech」に象徴される"人にやさしい超小型技術・超精密技術・低消費電力技術"を幅広い分野に活用しながら社会生活の向上に貢献していくことがシチズングループの願いです。

―シチズングループが目指す企業像とは

私は昨年4月の社長就任にあたり「人が活きる会社」という企業目標を提示しました。「人が活きる」とは、厳しさを踏まえた上で一人ひとりが向上心と充実感をもって働ける姿をめざしています。企業にとって業績向上の土台となるのが、人材力のレベルアップです。そのために、従業員の潜在能力を引き出し、活躍できる場を提供することが会社の責任と考えています。加えて、いろいろなことを経験する機会を与え、失敗を恐れず未来にチャレンジする企業風土を醸成していきたいと思います。

また、従業員自身にも自分たちの会社をどのような会社にしたいのか、自分で考え、自分で工夫していくことが求められます。全員が強い気持ちを持っていれば、なりたい会社に近づくことができるはずです。社長は、あくまでも従業員がつくりたい会社を実現するための案内役であるべきだと考えています。

さらに我々は、シチズングループの一員であると同時に、社会のメンバーの一員であるという意識を持って仕事をすることを忘れてはいけません。コンプライアンスや内部統制は、制度をきちんと明文化することはもちろんですが、企業人として、また社会人としての誇りや道徳観が基本だと私は思っています。そして、自然に抑止力が働く形が本当のCSRです。従って、CSRを推進するには一人ひとりが人間性を高めていくことが大切です。

昨今は環境の変化が激しいので、昨日正しかったことが、明日にも正しいとは限りません。既成概念にとらわれず、ものごとの本質を考え直すことによってあらゆる変化に対応できる企業体質のもとに、人が活きる新しいシチズングループをめざして、実行していきます。

「シチズングループ CSR報告書2009」がここに完成いたしました。皆様からのご意見・ご感想を頂戴できれば幸甚に存じます。今後ともシチズングループへのさらなるご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2009年6月

シチズンホールディングス株式会社
代表取締役社長
金森 充行

シチズングループの 地球と人にやさしいものづくり

シチズングループでは、地球と人にやさしいものづくりを進めており、あらゆる製品や部品において、シチズングループ独自の「環境配慮型製品」の認定への取り組みを強化しています。開発段階から環境製品アセスメントを実施し、7項目の評価基準を満たした製品を「環境配慮型製品」として認定しています。2008年度は、新規モデルの環境配慮型製品率100%の目標に対して、99%の実績となりました。2009年度は、100%の完遂をめざします。さらに、より厳しい視点でアセスメントを実施する「スーパー環境配慮型製品」を開発し、お客様に提供していきます。

シチズンセイミツ

超低消費電力で、薄く、軽く、高コントラスト 電子ペーパーセル

省電、薄さ、軽さ、高コントラスト、メモリー性をもった表示素子で、画像パターンが変わる着せ替え携帯電話に採用。(㈱日立製作所 auW61H)

超低消費電力で、大型表示部を設けても連続待受時間は従来機種とほとんど同じです。

電子ペーパーモジュールの特徴

- 従来の液晶ディスプレイと比べ1/100の消費電力。超低消費電力で常時表示が可能。
- 明るく見やすい表示。(高反射率、高コントラスト、広視野角)
- 薄型、軽量の上、割れないプラスチックディスプレイなので衝撃にも強い。

シチズンセイミツ製 電子ペーパーモジュール

Eco Products by CITIZEN

シチズングループのエコプロダクツ

シチズン時計

「光で、捲くシチズン。」 シチズン エコ・ドライブ

光発電時計エコ・ドライブは、2008年度出荷ベースで全世界の80%の目標を達成することができました。地球環境にやさしい製品を使うことの意識の高まりを受け、エコ・ドライブが全世界のユーザーに継続的に支持されていることの表れと実感しています。

「技術と美の融合」というプロダクト・コンセプトを表現するひとつがエコ・ドライブ電波時計です。「光がある限り、いつでも、どこでも動き続け、そして狂わない」という製品をお客様にお届けできることを幸せに感じています。

「時の記念日」(2009年6月10日)には、「光で、捲くシチズン。」をキャッチフレーズに、新開発ムーブメント『H610』搭載モデルを発売しました。

このエコ・ドライブ電波時計は、1/5秒運針クロノグラフと、世界ではじめてのディスク式都市選択機能が付いて誰にでも使いやすいワールドタイム機能も実現しました。

エコ・ドライブは、1996年に時計としてはじめて「エコマーク商品」に認定されています。

シチズン時計は、地球と人にやさしいものづくりを実現するために、これからも邁進していきます。

シチズン電子

明るく灯してエコ! 次世代の省エネ光源 照明用LED

白熱電球の20倍長持ち

照明用LEDは40,000時間と大変寿命が長く、白熱電球の2,000時間と比べると約20倍も長持ちします。通常の使用で約10年間交換を行わずに済みます。

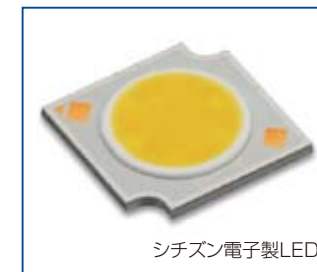
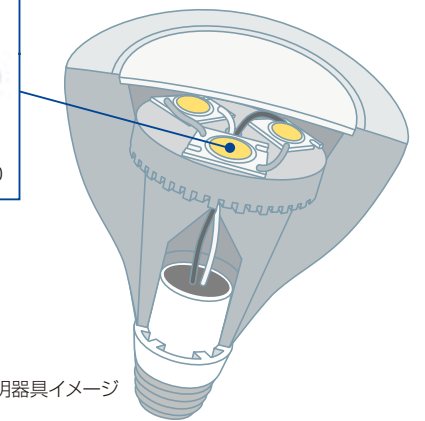
シチズン電子製LED

※照明器具イメージ

水銀レスで環境にやさしい

蛍光灯と違って水銀を使用しておらず、鉛などの有害物質も含まないため、環境にやさしい製品です。また、蛍光灯のようにガラス管を使用する必要がないため、地震などの災害時にガラスが割れる危険がありません。

比べればよく分るLEDの実力

シチズン電子では、業界トップクラスの発光効率の照明用LEDを製品化しています。発光効率が良いと、1ワットで得られる光束(光の量)が多くなるため、少ない消費電力で明るさを維持することができます。白熱電球に比べると、消費電力を大幅に削減することが可能です。

[照明用光源の比較]

	当社LED CL-L251 (単品)	蛍光灯 (40W)	電球型蛍光灯	白熱電球	ハロゲンランプ
発光効率 (lm/W)	95	70	60	12	24
明るさ (lm)	425	2,850	465	485	1,550
消費電力 (W)	4.5	40	8	40	65
寿命 (時間)	40,000	12,000	6,000	2,000	3,000

(当社推定)

光発電時計エコ・ドライブがお客様に届くまで

特集 光発電時計エコ・ドラ

地球と人にやさしい製品を提供するため、各工

環境にやさしいものづくりのはじまり

中国におけるグリーン調達の取り組み

シチズングループでは、環境負荷が少ない原材料、部品などを優先的に購入するグリーン調達活動を進めています。グリーン調達基準書に基づき、有害化学物質に関して厳しい管理を行っています。特に含有リスクの高い部品は受け入れ検査を行うなどの重点管理を行っています。お取引先の多くは中国にあり、より慎重に有害化学物質の管理を行っています。

これまで各生産拠点がお取引先に対してそれぞれ行っていた業務執行機能（発注・納期・品質・コスト管理など）を効率化するため、2008年12月に中国華南に需給コントロールセンターを新設し、すべての外装部品調達を一括発注できる体制を整えました。今後もさらに統括管理の徹底を図っていきます。

新星工業有限公司　需給コントロール推進室 室長
元持　宏之

環境配慮型製品の創出

環境配慮型製品アセスメントの実施

シチズングループでは、時計を中心に3年間で環境配慮型製品を約2,000点認定しました。時計を中心として、歩数計、血圧計、小型プリンターなどの分野までカバーし、シチズンの環境配慮型製品を拡大することができました。次なる目標は、シチズンの環境配慮製品をどのように世の中に訴求していくかということです。

「環境配慮型製品分科会」では、毎月各社から申請された新規モデルを評価し、合格したものを環境配慮型製品として認定。時計に関しては、海外生産モデルを評価する仕組みが整い、毎月約200点の環境配慮型製品が誕生するようになりました。また、さらに上をめざす「スーパー環境配慮型製品」への取り組みも開始。今年は第1号が誕生するよう、分科会として活動を盛り上げていきたいと考えています。

環境配慮型製品分科会 事務局
倉形　亮

デザインを重視した文字板の実現

世界一美しい文字板をめざし

シチズンセイミツで開発・生産している光発電エコ・ドライブ用光透過性文字板は、試作してみないと完成イメージが掴めない難しさがあります。サンプルを繰り返し製作し、デザイナーのイメージを確認しながら進めています。技術の進歩によりわずかな光での発電が可能になったのでデザインの自由度が広がり、文字板づくりには、さらにデザイナーとのコミュニケーションが重要になっています。

「世界一美しいエコ・ドライブ用文字板」を実現するために、開発をしています。白黒のはっきりした文字板や金属質感をつくり出すために、文字板の生地および構成部品まで開発しています。30年以上前から数々の技術開発をしており、最近は若手社員の成長が著しく、彼らが発案した技術を量産導入しました。この重要な技術をエコ・ドライブ用文字板の主力技術に育ててあげるとともに、今後も文字板技術は進化し続けていきます。

シチズンセイミツ 外装事業部 課長
渡辺　正明

資材調達

開発・設計

製造

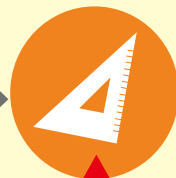
お客様

環境配慮型工場への変革

中国での環境規制への対応

中国における環境規制は大変厳しく、とくに表面処理工場では「工程内使用水の大幅削減」「毒物のシアン不使用」を求められ、「環境配慮型工場」への変革に努力しています。東京サイドも生産革新チームを軸に、逆浸透膜によるニッケル回収や、イオン交換樹脂による洗浄水リサイクルに取り組み、環境技術の導入を積極的に展開しています。

卓榮工業の表面処理工場で、外装のIP・メッキ製造や、工場からの排出水量や排水基準に関する仕事をしています。この工場近辺の河は上流より清浄とは言えないので、卓榮工業の工場排出水を改善しても仕方ないと思う気持ちが正直あります。しかし、一企業として、早期にまた積極的に環境改善や法的遵守を進め、中国に対して貢献したいと考えています。

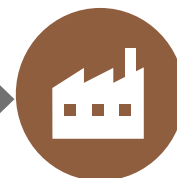
卓榮工業有限公司　表面処理工場 工場長
岡田　聰

技術と美の融合

世界最小のエコ・ドライブ電波時計

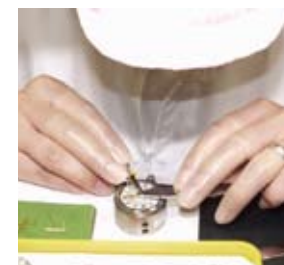
2008年10月、世界最小エコ・ドライブ電波時計が「シチズン　エクシード」レディースコレクションより発売されました。1円玉より小さく、機能を向上させた新ムーブメント「H010」を採用し、女性用エコ・ドライブ電波時計では初のカレンダー機能とPerfex※を搭載。機能と美しさを兼ね備えた高級レディースウオッチです。

※「JIS 1種耐磁」「衝撃検知機能」「針補正機能」の3つを一本化させ、より正確な時刻表示をさせる機能。

「さらなる小型化と市場要望の高いカレンダー表示機能などを搭載し、レディースウオッチ市場で確固たる地位を確立すること」が企画の狙いでした。小型化による技術課題を克服することと、ケース外径26mmというサイズにおいて存在感のあるデザインをすることがポイントでした。レディースウオッチならではのフォルムと優雅な表情に「正確」「見やすい」「長く使える」の機能美を兼ね備えた時計が実現しました。

シチズン時計 マーケティング本部 第一商品企画部
吉川　茂樹

美しく組み立てる匠の技

マイスターによるものづくり

シチズン平和時計では「どのような人が、どのような環境で、どのような想いで、ものづくりを行うかが、製品の価値を決める」との考えから、製品の品質ランクに見合ったマイスターによる保証体制をとっています。とくに完成品組み立てでは、技能者の能力が製品の顔となるので、作業の集中力が必要です。そこで、南信州高級時計工房を設置し、作業環境の整備を行うとともに、お客様が見て安心して購入していただける環境づくりを進めています。

この商品がお客様の腕にはめられ、「良い時計だ」と言われることを想像しながら組み立て作業を行っています。2006年に"信州の名工"に認定されて以来、ものづくりにかける思いは一段と強くなりました。日常生活においてもリズムのある生活を心がけ、目を休めるためにもテレビはあまり見ません。仕事においては、後輩の模範になりたいと考えています。

シチズン平和時計 時計製品部 技能育成担当 課長 スーパーマイスター
橋場　悦子

イブがお客様に届くまで

程においてさまざまな取り組みを行っています。

ソーラーセルの進化とともに

より確かな品質を求めて

エコ･ドライブの心臓部であるソーラーセルや駆動ムーブメントは、ミクロン単位の超小型薄型部品で構成されています。安定した品質を維持し、お客様に長く安心してご利用いただくために、一貫した品質管理システムで製造。長期信頼性の確保に配慮した品質管理を行っています。

エコ･ドライブの小型化/多機能化にあわせて、ソーラーセルのスペックは常に変化しています。ソーラーセルの品質には機能/外観/信頼性がありますが、これらは実際の使用状況とお客様の視点から仕様決定されています。すべてのエコ･ドライブをお客様に満足してご愛用いただけるような、ソーラーセル品質をお届けしたいと思います。

シチズン時計 技術開発本部
製造革新センター
長瀬　裕一郎

お客様の「ありがとう」のために

国内販売店様向け講習会の実施

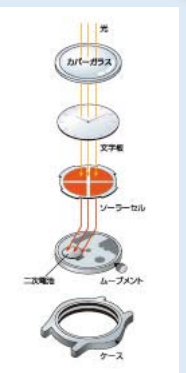
CSセンターでは、販売店様向けに時計修理技能者向け講習会を行っています。時計を分解し、エコ･ドライブの特長や扱い方の正しい知識を、学んでいただきます。このほか、販売員様対象のものを含めて年間150回講習会を開催。1,000人以上の方々の、知識や技術の向上のサポートを行っています。

エコ･ドライブなどの新機能を搭載した時計は大変便利ですが、お客様に知識を正しく理解していただかなければ、その価値も半減します。そのため、CSセンターでは販売員様を対象に、講習会を実施。新製品の特徴や時計の基礎知識、取り扱いの実技など、受講者のレベルにあわせた講習を全国各地できめ細かに実施しています。

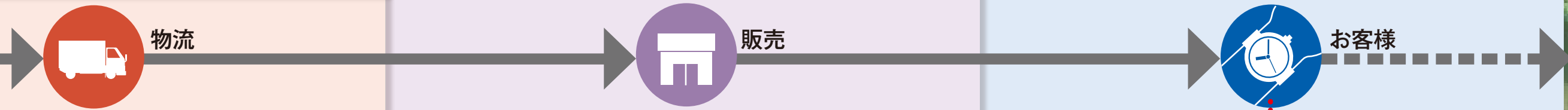
シチズン時計
CSセンター 国内CS室
室長
栗原　宏之

光発電で地球環境の負荷を低減

人へのやさしさは、環境へのやさしさ

エコ･ドライブは、内蔵したソーラーセルが光を受けることで発電、発生した電気エネルギーが二次電池に備蓄され、その電力で時計を動かし、電池交換の必要がないことが特徴です。また、二次電池に有害金属が含まれず、製造過程でも有害物質を使用しないなど、エコロジーの観点からも非常に高い評価をいただいています。

電池交換不要のエコ･ドライブは、廃棄電池を出しません。地球環境にやさしい商品として、これまでに3,000万本以上を販売しています。エコ意識はもはやステイタスになりつつある今、一番身近にある腕時計からエコを感じていただくことが我々の喜びです。

シチズン時計
時計事業企画本部　戦略企画部
伊藤　博史

物流　→　販売　→　お客様

の声

物流に伴うCO_2排出削減への取り組み

時計業界5社での共同配送

共同配送は、セイコーウオッチ、セイコークロック、リズムサービス、オリエント時計の各社とシチズン物流サービスの計5社で行っています。導入前は各社独自で納品していたため、トラック運行台数は相当数に上り、その分のCO_2も排出されていたはずです。共同配送への切り替えにより、各社トラック台数を減少。同時にCO_2排出削減につながっただけでなく、お取引先も荷受が一度で済むので喜ばれています。

出荷する際は、梱包にお取引先名の入った出荷指示書を貼っています。大量出荷する日などは大変です。最後は誤送などがないように、確認して、受け渡ししています。出荷頻度と数量の多い一部のお取引先向けの出荷梱包に関しては、段ボールではなくプラスチックコンテナを循環使用。資源と経費の削減を図っています。

シチズン物流サービス 物流センター
リーダー
佐藤　幸哉

世界のシチズンは今

アメリカ市場成功の舞台裏

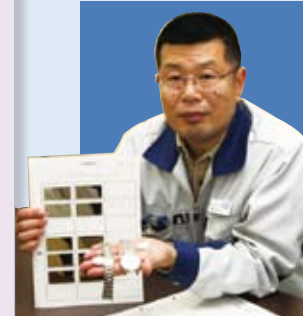
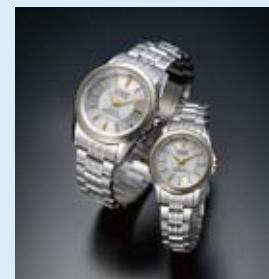
シチズンは米国中価格帯時計市場にて、30%以上のシェアを獲得し、No.1の地位にいます。この成功に大きく寄与しているのが、一貫した販売戦略です。マーケットにエコ･ドライブを導入し、プロモーションをはじめたのが1996年。エコ･ドライブによるブランディングは、時計のほか宣伝や販促物にも徹底して貫かれています。過去10年間に1,000万本以上を売上げ、最近では販売される時計の85%以上がエコ･ドライブです。

市場でトップを保つには、あらゆる点での革新性が要求されます。商品では、エコ･ドライブに代表される、より大きな価値を提供する高品質な商品の販売で、成功を収めています。ブランドを若々しく、力強く見せるエコ･ドライブが創造するイメージを、マーケティングや販売活動に最大限活かし、北米市場でのさらなる発展をめざします。

CITIZEN WATCH CO. OF AMERICA, INC.
グルンシュタイン社長

いつまでもお使いいただくために

シチズン独自の技術「Duratect」

「Duratect」とは、時計のケースやバンドに特殊な加工処理をすることで日常使用によるスリ傷や小傷から時計本来の輝きや仕上げの美しさを保護するためにシチズンが独自に開発した表面処理技術です。いくら大切に使っていても逃れることのできない小さな傷、「Duratect」はそんな傷から大切な時計を守り、時を経てさらに深まる価値を生み出します。

しばらく使っているうちにふと気づく時計の傷。ほんの小さな傷で、着けている方の心を傷つけることもあります。新しい時計をした時の「感動」や「こころの輝き」を失わないでほしい。そんな願いを込めて研究開発を続けて生まれた技術が「Duratect」です。これからもお客様の立場に立ち、満足いただける商品を実現すべく努力していきます。

シチズン時計
技術開発本部 商品開発センター
課次長
直井　孝一

シチズングループのCSR

シチズングループは、「シチズングループ企業行動憲章」をもとにステークホルダーとのコミュニケーションを図り、「市民に愛され市民に貢献する」という企業理念の具現化をめざします。

シチズングループ企業行動憲章

シチズングループは、2007年4月の純粋持株会社体制への移行に伴い、グループ各社の役員・従業員がステークホルダーに対する共通の認識をもって行動し、より一層の社会的責任を果たしていけるよう、「シチズングループ企業行動憲章」を制定しました。グループ各社は、グループ共通の企業理念「市民に愛され市民に貢献する」のもと、事業特性や地域特性、歴史や企業風土などを尊重し、それぞれの責任のもとでCSR活動に取り組んでいます。

シチズングループ企業行動憲章

わたしたちは、あらゆる法令、社内規則を守り、企業行動憲章に従って行動します。

シチズンは、"市民に愛され市民に貢献する"企業理念のもと、

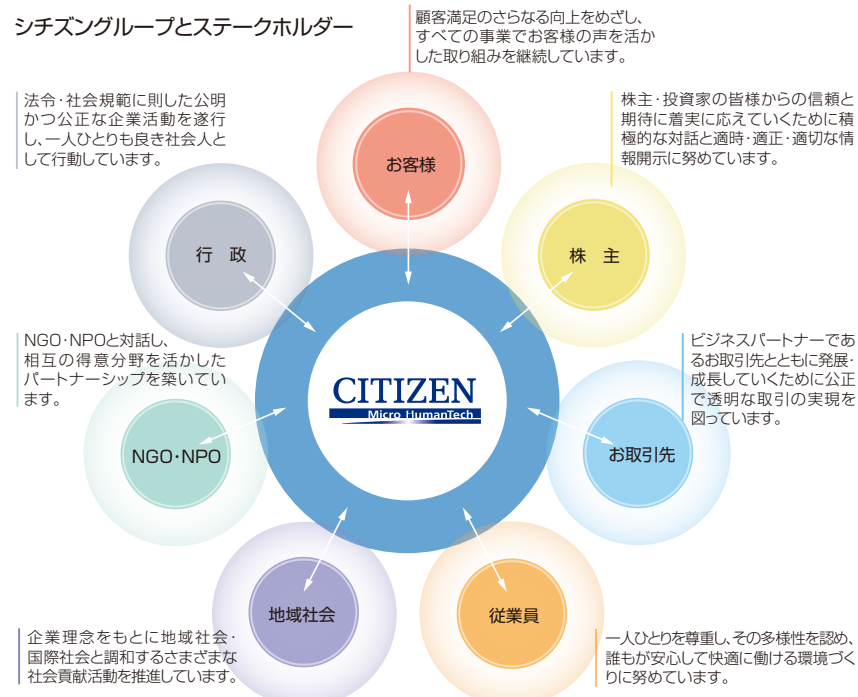
1. 安全、品質、環境に十分配慮した製品とサービスを顧客に提供します。
2. 商取引においては、公正、透明、自由な競争を行い、また政治、行政とは健全な関係を保ちます。
3. 広く社会とのコミュニケーションを図り、企業情報を積極的かつ公正に開示するとともに、適切な情報管理を行います。
4. 環境問題は人類共通の課題であり、また企業の存在と活動に必須の経営課題であることを認識し、自主的、積極的に取り組みます。
5. 良き企業市民として、地域社会との共生を大切にし、社会貢献活動に努めます。
6. 安全で働きやすい職場環境を確保するとともに、従業員の能力、活力を引き出し、人格、個性、多様性を尊重します。
7. 反社会的勢力及び団体には、毅然たる態度で対応します。
8. 海外においては、その文化や慣習を尊重し、現地の発展に貢献するよう努めます。
9. グループ各社の経営トップは、本憲章の実現が自らの役割であることを認識し、率先垂範の上、社内に徹底するとともに、関連企業や取引先に周知します。また、社内外の声を常時把握し、実効ある社内体制の整備を行うとともに、企業倫理の徹底を図ります。

この企業行動憲章を遵守するために、会社と従業員は、不断の努力を行います。万一、本憲章に反するような事態が発生したときは、会社は自ら問題解決と再発防止にあたり、社会に対して適切な報告を行います。また、権限と責任を明確化した上で厳正な処分を行います。

発効日2007年4月6日
シチズングループ経営戦略会議にて制定

ステークホルダーとの関わり

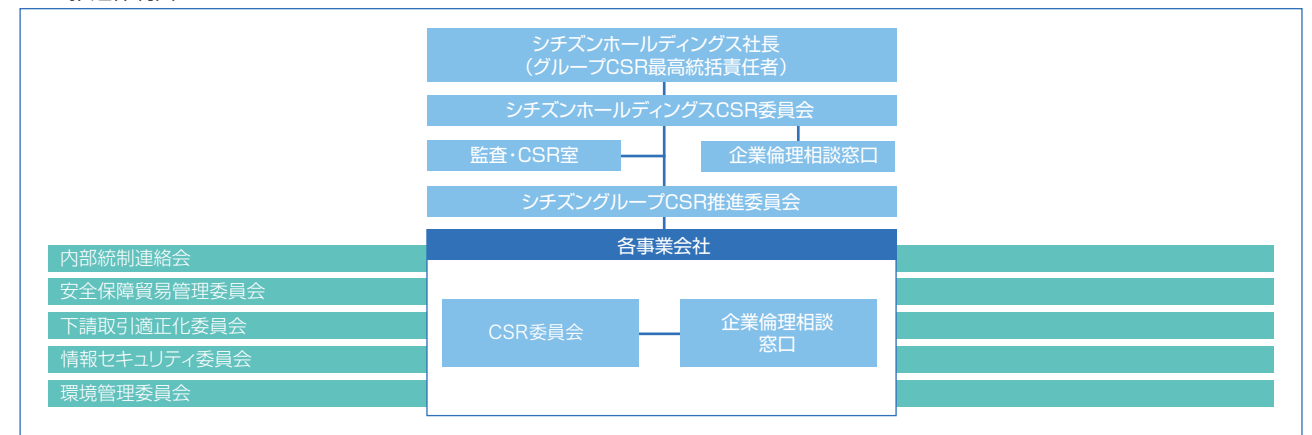
シチズングループの事業活動はさまざまなステークホルダーとの信頼関係のもとに成り立っています。ステークホルダーとのコミュニケーションを図り、企業理念の具現化をめざします。

シチズングループとステークホルダー

シチズングループ CSR推進体制

シチズングループのCSR活動は、シチズンホールディングスの社長を最高統括責任者とし、社長直属の専任部署である監査・CSR室が事務局を務める「CSR委員会」が、グループの方針や政策を立案・提言しています。CSR委員会は、シチズンホールディングス、シチズンビジネスエキスパートのそれぞれの代表委員で構成されています。

また、CSR活動をグループ一体となって進めていくために、事業会社ごとに「CSR委員会」を設けるとともに各社から選出されたCSR担当責任者で構成する「シチズングループCSR推進委員会」を設置しています。

さらに、内部統制システム管理、安全保障貿易管理、下請法の遵守状況管理、情報セキュリティ対応、環境管理など、シチズングループにとって重要なテーマについては、グループ各社が参加する各種の専門委員会を設けて、施策を立案・実施しています。

CSR推進体制図

国連グローバル・コンパクトに参加

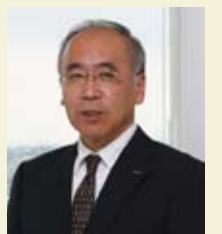
シチズングループは、2005年4月に「国連グローバル・コンパクト」への参加を表明し、グループを挙げてその10原則の支持・尊重・実行をめざしています。具体的な指針として、「国連グローバル・コンパクト」の精神を踏まえた「シチズングループ企業行動憲章実行の手引き」をまとめており、基本的人権の尊重、強制労働・児童労働の禁止、環境への対応、外国公務員への不適切な贈答・接待の禁止などの項目について規定しています。今後も国内はもとより、海外においても「国連グローバル・コンパクト」の精神の徹底に努めていきます。

Voice

中国におけるCSRの推進

2008年12月に広東省(広州・東莞)・江蘇省(蘇州)にて、各事業会社(16社)の生産拠点長が集まり、アンケート実態調査、および今後の対応などを協議するためのCSRミーティングを開催しました。江蘇省の各社では、「シチズングループ企業行動憲章」の中国語訳を従業員に配布するなど、従業員への啓発活動に注力しているところも見られました。

今後も「国連グローバル・コンパクト」の10原則を重要な行動規範として位置づけ、社会貢献や環境問題にも積極的に取り組める体制づくりに努めていきます。

江蘇省の各社に配布した「シチズングループ企業行動憲章」中国語訳

シチズンホールディングス
監査・CSR室　室長
上田　寿昭

シチズングループのCSR

CSR活動の目標と取り組み状況

シチズングループでは、2007年度から毎年各社ごとに「CSR活動の目標」を設定して展開を図ってきました。

「シチズングループ企業行動憲章」の条項に沿ってCSR活動の目標を定め、年度末に実績をまとめ、今後の課題を明らかにすることでPDCAを廻しています。この結果を各社ごとに「CSR活動の目標と年度実績」にまとめています。

右記の表に2008年度のCSR活動の目標と取り組み状況の一部を抜粋して紹介します。

シチズングループでのCSR活動の取り組み状況を右記の表まで紹介できなかったところを含めて総括すると下記のようになります。

❶ **情報開示と情報管理**：2008年度は、各社とも「金融商品取引法(J-SOX法)」施行本番ということで、内部統制の仕組みを効率的に運用し評価し改善することを目標として活動しました。今後内部統制の仕組みを維持していくこと、さらに実効性を高めるために改善をしていくことなどが課題です。

❷ **社会貢献活動**：社会貢献活動については、各社とも事業形態の特色を活かした地域に貢献できる活動を行っている。たとえば、製造会社では、職場体験学習やインターンシップ、工場見学の受け入れなどを行っています。
グループの多くの会社が取り組んでおり、今後も継続していきます。

❸ **職場環境と従業員**：国際的な経済環境の激変により販売不振や在庫増となり、その結果として減産や一時帰休を余儀なくされ、従業員のモチベーションが下がりつつあります。職場環境の活性化への取り組みが次年度への課題と考えています。

❹ **海外現地発展への貢献**：海外のグループ会社については、内部統制チェックリストによる現状把握、問題点の抽出と改善などを行い、社会貢献活動についても調査を行いました。中国人スタッフへの権限委譲についても徐々に進んできています。海外に工場をもち、製品を輸出している企業として、さらに海外現地の発展にどのように寄与できるかを検討しなければならないと考えています。

Topics

CSR意識調査

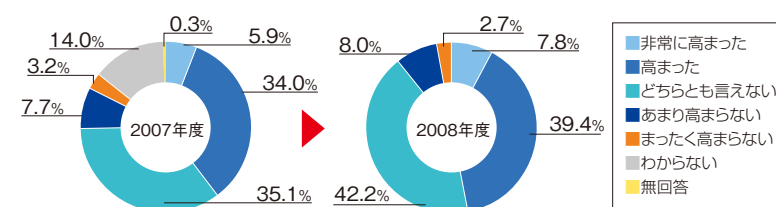
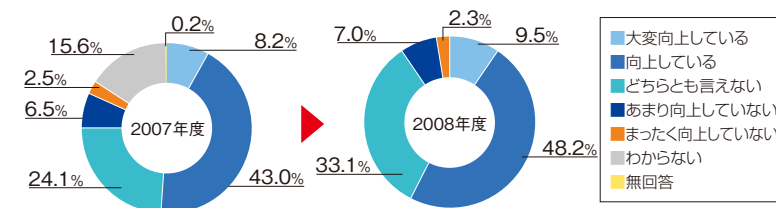
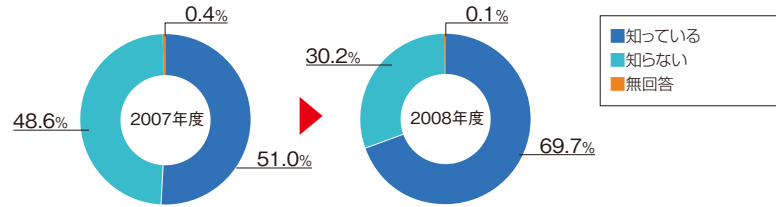
シチズングループでは、CSR･企業倫理に関する認知状況を把握するために、事業会社39社の従業員（派遣社員含む）を対象にCSR意識調査を行っています。

グループ全体で2回目となる2008年度の調査結果では、2007年度調査と比較して従業員のコンプライアンス意識の向上が見られました。

また、CSR活動を通じて企業価値向上に寄与しているかという設問に対しても「大変向上している」「向上している」の比率が向上しました。

さらに、2007年度、認知度が約50%であった「企業倫理相談窓口の存在」については、ポスターや社内報などを通じて相談窓口の周知を図った結果、大幅な改善が見られました。

今後も事業活動を通じて、CSRをグループ全体に浸透できるよう長期的･継続的に取り組んでいきます。

Q.1 CSRに取り組むことによって、あなたの遵法精神が高まったと思いますか?

Q.2 CSRに取り組むことによって会社の企業価値が向上していると思いますか?

Q.3 あなたは企業倫理相談窓口(CSRホットライン)を知っていますか?

［回答者数］2007年度：6，634名／9，177名（回答率72.3%）
2008年度：5，776名／9，047名（回答率63.8%）

2008年度CSR活動の目標の取り組み状況

企業行動憲章	CSR活動の目標	実施会社	2008年度の取り組み状況
第1条 製品の安全･品質	エコマークの取得	シチズン時計	シチズンブランドのエコ･ドライブ、メカニカル時計は全商品でエコマークを取得。シチズンブランド以外のメカニカル時計の取得は未済。
	顧客クレームの削減	シチズンファインテックミヨタ	電子部品では重点品質会議にて原因分析と再発防止に取り組み、協力工場へは管理図を用いた監視や指導を実施。その結果上期ではクレームが1件、下期ではゼロ。
第2条 商取引	下請法遵守の確実な定着	シチズンマシナリー	関東経済産業局による立入調査を受け、指摘事項の是正を実施し、了承を得た。下請法遵守委員会による内部監査を各部門に実施し、是正処置を行う。
	健全なる商取引の実行	シチズンシービーエム	内部統制ルールの整備に伴い、契約書等の文書チェック体制を整備した。今後も事業統合によりシチズン時計と一体運営を行う。
第3条 情報開示と管理	金融商品取引法での内部統制システムの運用	シチズンファインテックミヨタ	内部統制システムの構築、規程類の整備、およびシステム改善を図り、運用テストの評価の結果、統制が有効であると判断した。
	個人情報保護の取り組み強化	東京美術	Pマーク(プライバシーマーク)保持企業としての社内教宣活動の徹底、保有する個人情報の洗い直し、外部委託業者への管理の徹底などを図り、Pマーク認定を更新した。
第4条 環境管理	環境汚染事故防止	シチズン埼玉	排水処理設備の有人監視体制を8時間から10時間へ延長。簡易分析計導入による監視範囲の拡大と監視体制を整備した。
	安全と環境への対応	シチズン電子	定期的に工場排水の分析･測定(年4回)、周辺の騒音測定(年1回)、ばい煙測定(年1回)、作業環境(有機溶剤)測定(年2回)を実施し、問題なかった。今後も継続する。
第5条 社会貢献	従業員参加による社会貢献活動の推進	シチズン平和時計	地域住民、学生への施設、教育の場の提供として、中学生の職場体験学習、インターンシップの受け入れを行なう。
	地域社会への貢献	シチズン電子	1)富士山クリーン作戦に1999年から毎年役員･従業員が約50名参加し、5合目付近の清掃活動を継続。 2)100万本植樹運動に2000年度から新入社員研修を兼ねて約20名が参加。
第6条 従業員	人材育成制度の制定	シチズン･システムズ	「人材育成制度」を制定し、全員参加を基本として、階層別、テーマ別やOne-up研修を実施し、108名が受講した。
	裁量労働制、みなし労働制における時間外労働の明確化	シチズン狭山	フレックスタイム制の正しい運用の見直しを実施。職責者、対象者向け研修の実施、申請手続きの実施。
第7条 反社会的勢力	反社会的勢力からの不正行為、不当要求への対応	シチズンセイミツ	定期的な購買会議やホットラインからの取引先情報の収集、取引先評価の実施。取引のない団体からのネガティブオプション請求は断固拒否。
第8条 海外現地の発展	中国拠点での環境規制への対応	シチズン時計	ニッケル回収装置を設置し、水洗水の99%のニッケル回収ができ、メッキ液に戻す再生技術を確立できた。またメッキ洗浄水の再利用システムを導入し稼働中。
	中国工場における人材育成と活性化	シチズンセイミツ	中国人スタッフへの権限委譲を推進するため、各部門の部門長に中国人を配置した。また人材育成のため、班長以上の職責者に対して社内外の研修･実習を実施した。今後もさらに現地化を推進する。
第9条 経営者	「元気のある会社」「お客様に喜んでいただける会社」をめざした風土改革活動の推進	シチズンセイミツ	PMS(利益)、QMS(品質)、EMS(環境)の各マネジメントシステム運用に加え、FMS(風土改革)の活動を6Sの視点から開始し、さらにセーフティーを加えた7S活動にて取り組みを実施中。ゴールの姿として「何事にも当り前に気遣いができる企業風土」に変わることをめざす。

コーポレートガバナンス

経営の透明性確保や、多面的な事業における経営資源の最適配分を実現する、コーポレートガバナンスの強化に取り組んでいます。

コーポレートガバナンスに関する基本的な考え方

シチズングループは「市民に愛され市民に貢献する」を企業理念に、地域社会はもとより、地球環境と調和した永続的な企業活動を通して企業価値を向上し、社会に貢献していくことをめざしています。この企業理念を継続的に追求していくために、経営の透明性確保や、多面的な事業における経営資源の最適配分を実現する、コーポレートガバナンスの強化に取り組んでいます。

純粋持株会社と事業会社の役割

シチズングループは、シチズンホールディングスと各事業会社の責任と権限を明確化しています。

シチズンホールディングスは、グループ経営の全体最適の観点から経営方針の策定および投資判断を行い、事業会社が方針に則って事業活動を執行しているか否か、透明性をもった経営がなされているか否かなどを、モニタリングを通じて監督・統括しています。

一方、時計、電子デバイス、電子機器製品、産業用機械の各事業については、それぞれの事業統括会社が業界特性を踏まえた自立的運営を行うことにより、経営のスピードアップ、収益力強化を図っています。

また、シチズンホールディングスのなかの、人事、財務、研究開発、知的財産管理、ブランド管理などの分野で、グループ横断的な戦略と事業統括会社の方針を合致させるようにしています。

取締役・取締役会の役割

シチズンホールディングスの取締役会は、独立の社外取締役2名を含む10名(2009年3月31日現在)で構成されています。

取締役会は、シチズンホールディングスならびにシチズングループの経営方針やその他の重要事項を決定するとともに、取締役の職務の執行を監督しています。また、各事業統括会社のうちの重要子会社の社長も取締役(非常勤)として選任されており、事業統括会社の意見も取り入れた総合的な観点から、意思決定する仕組みとなっています。

さらに、企業経営など豊富なビジネス経験をもつ社外取締役の意見をシチズングループの経営に反映しているほか、アドバイザリーボードとして、社外取締役と社長で構成する指名委員会ならびに報酬委員会を設置しています。

監査役・監査役会の役割

シチズンホールディングスの監査役会は、社外監査役2名を含む3名(2009年3月31日現在)で構成されています。

各監査役は、企業の健全で持続的な成長確保および、社会的信頼に応える内部統制が機能しているか否か、法令や社内規則が遵守されているか否かをチェックしています。また、重要な決算書類などの閲覧、業務および財産状況の調査、取締役会などの各会議体への出席を通じて、取締役の職務執行全般をチェックしています。

シチズンホールディングスの監査役は、各事業統括会社における取締役の業務執行をチェックすることも重要な役割です。そのため、シチズンホールディングスおよび事業統括会社の間で整合性のとれた監査機能を発揮できるよう、シチズンホールディングスの常勤監査役と各事業統括会社の監査役で構成する「グループ監査役会」を開催し、シチズングループとしての監査方針を共有するようにしています。

内部統制システムについて

シチズンホールディングスでは「内部統制システム構築の基本方針」を定め、企業として社会的責任を果たしつつ、健全かつ継続的に発展するという経営目標達成のために、シチズングループが一体となり、内部統制システムのさらなる充実に向けた取り組みを行っています。

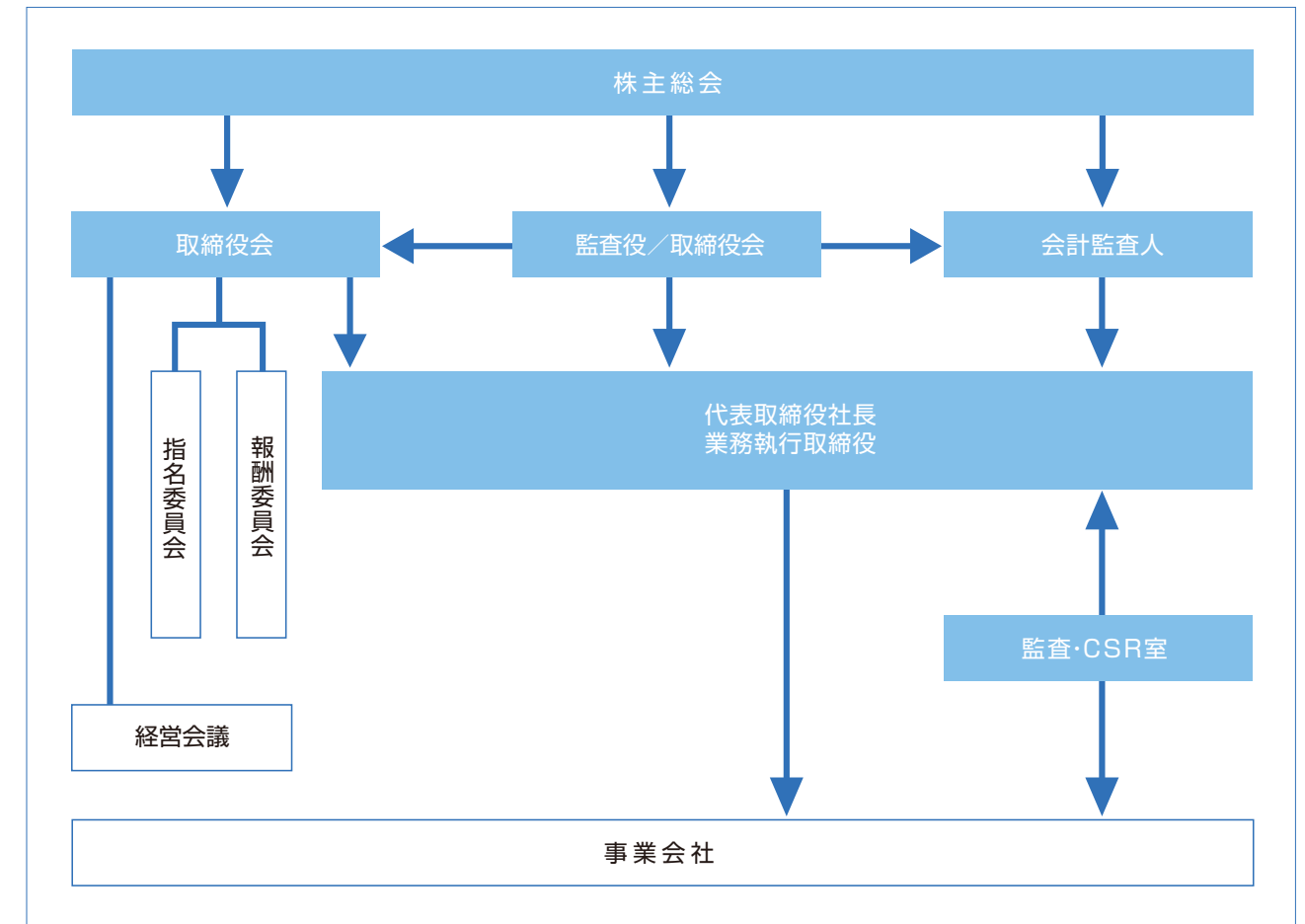
2008年度は、金融商品取引法(J—SOX法)の内部統制報告制度の適用初年度を迎え、内部統制システムが適切かつ有効に機能し、財務報告の信頼性が確保できるよう、シチズンホールディングスを中心としたグループ連結会社の担当者による、「シチズングループ内部統制連絡会」を新たに設けました。外部監査機関とともに連携を図り、内部統制システムの整備・運用・評価を進めていきます。

さらに、内部監査に期待されるさまざまなニーズに応えるために、事業統括会社4社に加え、新たに3社にも内部監査部門として監査室を設置し、さらに、主要事業会社の8社には内部監査担当者を任命しました。これら各社の内部監査部門による「グループ監査ネットワーク」を構築し、コーポレートガバナンスやリスクマネジメントの維持・強化を図っています。

外部機関からの評価

●ISS社によるコーポレートガバナンスのスコア

世界7,400社以上の企業のコーポレートガバナンスに関する評価を行い、機関投資家などにその情報を提供しているISS社(Institutional Shareholder Services,Inc.)は、シチズンのコーポレートガバナンス・スコア(CGQ)が、日本企業の上位1.2%に位置すると評価しています。(2009年4月1日付)

シチズングループコーポレートガバナンス体制図(2009年4月1日現在)

コンプライアンス

シチズングループでは、CSR活動の優先課題として「シチズングループ企業行動憲章」を基盤としたコンプライアンスに取り組んでいます。法令遵守を根幹として、道徳や倫理観に基づいた行動を促すべく、活動を進めています。

コンプライアンス推進体制と教育

●コンプライアンスへの取り組み

推進にあたっては、シチズンホールディングスに「CSR委員会」を設け、グループとしてのCSR活動の推進と、CSRに関する政策の立案・提言を統括的に行っています。グループ各社においては、各々が独自にCSR推進部門を設け、シチズンホールディングスと連携を取りながら、コンプライアンスの啓発活動や教育研修を含めて展開しています。個別には、各社がそれぞれ従業員の各職級にあわせた独自の教育体系に基づき、集合研修やビデオ研修を行っています。

なお、グループ全社の対象者全員を一堂に集め、各々のタイミングで新入社員教育・新管理職研修・新取締役研修の一環として、CSR・コンプライアンス教育を行っています。

●知的財産の管理

シチズンホールディングスの知的財産部は事業会社の知的財産部門と連携を取り知的財産ポートフォリオ構築に向けた集中管理体制を実施しています。具体的にはシチズンホールディングスの開発部と事業会社との共同開発および事業会社の単独の開発に基づく知的財産をシチズンホールディングス知的財産部が全体の調整をした上で集中管理を行っています。

グループ各社の取り組み

●遵守状況の把握

シチズン時計では、「シチズングループ企業行動憲章」を遵守するために、部門ごとの取り組み項目を「CSR活動チェックリスト」に定め、全部門にて現状を確認しました。結果を○△×の3段階で評価し、△×の項目については、監査計画を立て、内部監査を実施しました。

この結果、不適合または改善すべき点として挙げられた項目については、是正処置を求めました。

今後は、CSR活動のレベル・認識を高めるためにより現状を理解し、各部門との連携が図れるように、具体的な指導と継続的な改善を図っていきます。

●CSRコンプライアンス専用ページを設置

シチズン電子では、2007年度から、イントラネットに「CSRコンプライアンス」専用ページを設け、運用を開始しました。シチズン電子傘下の国内外12社に加え、シチズンホールディングスの企業理念、経営方針、環境方針、品質方針、CSR年度目標を掲載し、グループ結束の向上をめざして一覧できるようになっています。また、同じページより「社内通報制度・企業倫理相談窓口」ページにリンクできるようになっています。

社内通報制度

●社内外に通報窓口を設置

シチズングループでは、法令違反や不正行為による不祥事の未然防止、および違反のおそれがある場合に、事態を早期発見して各種リスクを低減し、組織の自浄作用を促すために、「企業倫理相談窓口（ホットライン）」を設けています。

「社内通報制度規程」では、通報者の秘密の厳守、公平・公正な調査、被通報者の反論の機会、通報者への調査結果の報告、通報者に不利益な処遇がなされないことなどを定めています。

2008年4月からは従来の制度に加え、外部通報窓口を設置し、匿名での通報ができるようになりました。

また、社内で相談窓口の周知徹底を図ったことで相談しやすい環境が整い、以下のように相談件数が増加しました。（P17 CSR意識調査Q.3参照）

2008年度の相談については、社内通報規程に従い事実確認を行い対策を講じた上で相談者に対し適宜フィードバックを行いました。

社内通報件数推移と通報内訳　（年度）

	2007	2008
職場の人間関係	1	6
社内ルール違反	2	3
上司とのコミュニケーション	1	2
コンプライアンス違反の疑い	1	2
メンタルヘルス	—	2
パワーハラスメント	—	2
お客様との関係	—	2
情報公開方法について	2	—
情報セキュリティ	1	—
その他	—	1
合計	8	20

（件）

リスクマネジメント

安全保障貿易や下請取引、情報セキュリティなど、重要なテーマごとにグループ横断型の委員会を設置しています。

リスクマネジメント体制

●グループ横断型の委員会を設置

シチズングループでは、事業活動に伴うさまざまなリスクに対応するために、内部統制システムの管理に加えて、重要なテーマごとにグループ横断型の委員会を設置しています。今後も、情勢変化に応じて新たな委員会の開設を検討していきます。

●安全保障貿易管理委員会

「シチズングループ安全保障貿易管理委員会」は、シチズングループ安全保障貿易管理規則に基づき、グループにおける安全保障貿易管理を遺漏なく実施するために、諸施策の実施、グループ会社に対する指導、教育、情報の提供、監査などを行っています。また、活動を推進するための組織として、グループ会社15社からなる「輸出統括会社連絡会」を設けています。

●下請取引適正化委員会

「シチズングループ下請取引適正化委員会」では、下請法教育の強化を2008年度の重点施策の一つとして活動を進めました。以前から実施している「基礎編講習会」に加え、2008年度には新たに、グループ内で発生した事例を題材として、その適切な対処方法を学ぶ「実務編講習会」を開設し、より実務に則した教育内容に改善しました。

2008年度は基礎編7回、実務編9回の講習を行い、グループ従業員延べ620名が受講しました。人材の育成による、下請法遵守体制の強化を図っています。

●情報セキュリティ委員会

「情報セキュリティ委員会」は、下部組織として「情報セキュリティ連絡会」を立ち上げました。委員会は事業統括会社の経営層で構成され、連絡会はグループ各社の実務担当者により構成されています。委員会の役割は、案件の承認と、インシデントが発生した時に、会議開催から解決までを担うことです。連絡会の役割は、具体的な問題を討議することで、セキュリティポリシーの変更に関わるものなどの大きな案件については、委員会承認を求めるという体制をとっています。

災害リスク低減のためにBCPを策定

シチズングループは、従来から各社ごとに「防災委員会」などを設置し、災害時における防災計画を整備してきました。2008年度は、シチズンビジネスエキスパートの「BCP委員会」により、首都直下型地震を想定した「事業継続計画（BCP）」を策定。各事項の具体的な実施手順などを定めたマニュアルや、効率的な実施のためのチェックリストなどの作成を行いました。今後はグループ各社へもBCPを展開していきます。

東京事業所での防災訓練

また、新型インフルエンザ対策については、各社従業員に新型インフルエンザへの備えと対策情報を提供しました。今後はBCPとして取り組んでいきます。

グループ各社の取り組み

●安否確認システムを導入

シチズン電子では、安否確認システムを災害時の緊急連絡として利用しています。

大規模災害発生時、従業員（および、その家族／関係者）の安否確認を迅速かつ確実に行うための仕組みであり、ビジネスの継続に不可欠な要素です。

また、そのほかの利用方法として、

①全従業員への緊急連絡として、大雪時の休業／出社時間変更など
②特定の人員への緊急連絡など

があります。

●移設検知装置を標準装備

シチズンマシナリーでは、「外国為替及び外国貿易法」を遵守するために、工作機械の不正輸出や不正転売、不正移設防止に取り組んでいます。国内向け・海外向けに関わらず、全シリーズ・全製品に移設検知装置を"標準装備"しています。これにより、工作機械を移設した場合は機械運転を不能とし、工作機械の不正使用の防止と機械の所在を確認するなどの輸出管理を行っています。また、ほかの工作機械メーカーに対して、本装置に関わる技術供与も行っています。

お客様とシチズン

2008年度後半の厳しい経済環境の影響で、輸出依存型企業のシチズングループも、計画を大きく下回る業績となりました。このような時こそ、価格以上の価値をもった製品こそが、お客様に認めていただけるのです。そのためにはお客様とのコミュニケーションが不可欠であり、貴重なご意見から製品を創造し、ご提供していかなければなりません。また、お使いいただく時のサポートを万全にするため、マニュアルの充実を図ることも重要です。

お客様にご満足いただける製品の実現に向け、継続的な改善を進めていきます。万が一お客様にご迷惑をおかけすることがあった場合、早急な対応をさせていただく相談室も、業務改革を進めていきます。

シチズン時計
代表取締役社長
永井　庸夫

シチズン時計の取り組み

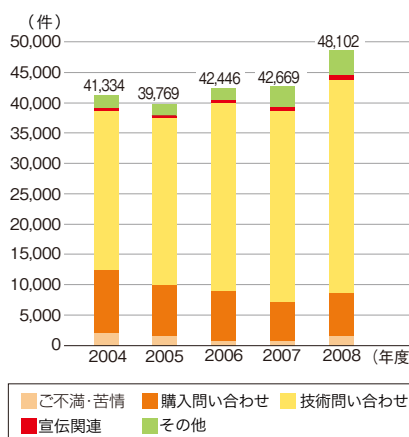
●お客様満足の基本的な考え方

現在の国内腕時計市場では、品質・機能・デザインなど多岐にわたって、より高いレベルの商品が求められています。なかでもエコ・ドライブ電波時計は幅広いお客様から評価される一方で、趣味性の高い時計や個性的なデザインの時計を望まれるお客様が増えています。シチズン時計では、こうしたお客様の幅広いご要望にお応えするために、さまざまな商品を揃えることに注力しています。最近では、エコ・ドライブ電波時計の小型・薄型化の実現に伴い、さらに多くのお客様にご支持いただいています。

今後のお客様満足度のさらなる向上のためには、品質・機能・デザインなどの商品力向上に加えアフターサービスを含めた総合的な品質の向上が欠かせません。これまで以上にお客様満足度を上げることがブランド価値向上につながると考え、お客様との重要な接点であり、ご要望やご質問を直接承ることができる「お客様時計相談室」の重要性は、ますます高まっていくといえます。

●お客様時計相談室の改革

「お客様時計相談室」には、電波時計に代表される高機能商品から、ファッション性を重視した商品まで、電話と弊社ホームページのお問い合わせフォームを通じて、機能相談・購入相談・修理相談など毎日250件前後の相談が寄せられています。ホームページでの製品説明サイトも充実させていますが、「お客様時計相談室」への相談件数は増加傾向にあります。

お客様時計相談室受付件数の推移

現状を踏まえ、「お客様時計相談室」では2008年後半から、お客様のさまざまなお問い合わせに対して、迅速かつ正確にお応えできる体制づくりを進めてきました。「つながりやすい電話」「迅速な回答」「確かな対応」「個人情報保護」を掲げ、ハード、ソフトを含めた総合的な受付システムに改革しました。お客様をお待たせする時間の短縮など、徐々に成果が出てきていますが、今後もさらに対応品質の改善を進めていきます。

お客様時計相談室での対応の様子

●「シチズン デザイン スタジオ」オープン

シチズン時計は「技術と美の融合」をプロダクトポリシーとして、腕時計づくりを進めてきました。数年来、お客様が製品に求める価値は、機能価値から情緒価値へと変化しています。安全・安心といった基本品質を維持しつつ、お客様の感性に響く商品を提供して

シチズン デザイン スタジオ

いくための重要な要素の一つが、デザインであると考えています。お客様に満足していただける新しいデザインの創出をめざし、2008年6月、原宿の表参道に設立されたのが「シチズン デザイン スタジオ」です。ここには数名のデザイナーが常駐し、表参道という立地を活かして、最新トレンドの吸収や外部クリエーターとの交流も行いながら、ウオッチのデザインクリエーション活動を行っています。

Voice

PR活動のサテライトとしての機能を併せもっています。

「シチズン デザイン スタジオ」は、PR活動のサテライトとしての機能を併せもち、新製品のプレゼンテーションなどを通じて、雑誌編集者やプレス関係者の方々との情報交換の場としても活用しています。

Series8発表会

2008年9月に発売された新製品『Series8』は、「モダン コンフォータブル デザイン ウオッチ」をコンセプトにシンプルでスタイリッシュな腕時計であり、デザインを重視して進めてきた取り組みの代表となる商品です。その発表会が「シチズン デザイン スタジオ」で開かれ、流通や雑誌社の方々から高い評価をいただきました。

シチズン時計
マーケティング本部 宣伝部
課長
木崎　信尚

グループ各社の取り組み

●お客様満足度調査

シチズン電子では、ISOの品質方針に「品質第一を基本に、お客様の信頼と満足度の向上を目指します。」という項目を策定し、年2回「お客様満足度調査」を実施しています。調査内容は、「製品の信頼性」「納期」「問題解決サポート」など、詳細評価項目を14種類に分類。2009年2月に選定した20社を対象に調査を実施し、前回調査よりも良い評価をいただきました。しかし項目別で見ると「価格」と「新製品の情報提供」の項目では、厳しい評価となっています。

今後も「お客様満足度調査」を確実に実施し、お客様の声を事業に反映させ、お客様の信頼と満足度の向上をさらにめざしていきます。

●車載製品の品質確保

シチズン電子の車載製品部では、車載用のチップLED、フォトセンサー、バックライトユニットの設計・開発から、量産・出荷を手がけています。

車載用の部品・デバイスは、その用途や3万点以上とも言われる膨大な部品構成などから、品質要求レベルは非常に高く、不良流出は『10PPB（1/10億）』以下であることを求められています。（この数値は、『不良0』を意味しています。）

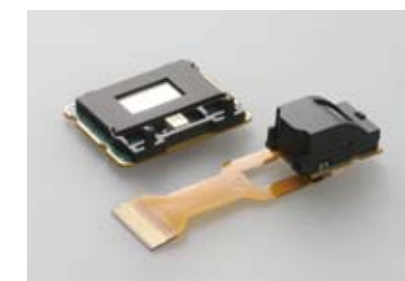
この要求を達成するために、

❶設計段階で品質に関するすべての問題点・課題を抽出し、解決する。（問題点とリスクの軽減／解消、工程能力の確保）
❷車載用品質システム「ISO/TS16949」に準拠する。
❸車載製品部門の組織化と4M化。（Man、Material、Method、Machine）
❹各個人のスキルアップを図る。

上記活動の結果、2008年から量産がスタートし、お客様から高い品質評価をいただいています。今後もこの品質を維持・改善し、お客様に安心して使用していただきたいと考えています。

●お客様からの評価

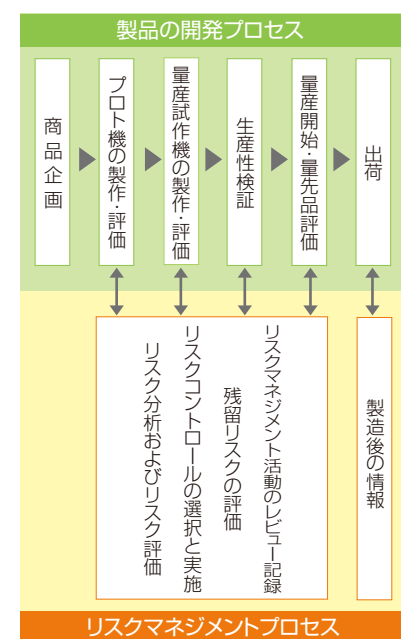
シチズンファインテックミヨタの電子デバイス事業は、「より軽く、より小さく、より高性能に」をめざし、いち早くマーケットニーズを捉え、先進性と実用性を兼ね備えた機器・デバイスを開発・製造しています。なかでも、マイクロディスプレイ製造技術LCOS（Liquid crystal on silicon）は、製造技術が難しく、量産できるメーカーは限られています。

お客様と戦略商品のキーパーツであるLCOSパネルの開発契約を締結し、3年間の開発・試作、評価を行ってきました。この間、強いパートナーシップのもとお客様からの大きな期待と熱意に支えられ、最も厳しい仕様を満たし、2008年に納入を開始することができました。このことに対しお客様より高い評価をいただき「量産出荷達成の感謝状」を頂戴しました。今後もお客様の期待に応えるため、技術の追求に励みます。

LCOSパネル

お客様とシチズン

●お客様と共存共栄を実現する品質づくり

シチズン・システムズでは、電子体温計・電子血圧計の開発時にJIS T 14971「医療機器-リスクマネジメントの医療機器への適用」を実施しています。

電子体温計・電子血圧計は医療機関のみならず、家庭において最も日常的に使われる医療機器です。お客様に安心してお使いいただくために、正確に測定できるだけでなく、機器そのものが安全であることが欠かせません。JIS T 14971の規格は、100以上のチェック項目から①機器のすべてのハザードを抽出し、②各々のハザードについて、危害の重大性と頻度から危険レベルを評価し、③すべてのハザードについて安全性が確保されるまで、設計・製造・表示・取扱説明書などの改善を要求しています。実施手順を「リスクマネジメント規定」、「リスク分析手順書」として標準化し、開発ステップのすべての段階（企画・設計・プロトタイプ・量産試作・出荷認定）で開催されるデザインレビューで、実施内容を審査しています。

●電子マニュアルのさらなる工夫

シチズンマシナリーは、「顧客満足度世界一」に向け、製品を正しく安全にお使いいただくための取り組みに力を入れています。

工作機械用取扱説明書の役割は、製品の「正しい取り扱い方」と「安全」に関する正確な情報を、タイムリーにお客様に提供することです。これらの情報を伝える手段の一つとして、1年ほど前から冊子の取扱説明書に加えて、電子マニュアル（CD-R）の提供を始めました。

電子マニュアル

当初は特定の新機種のみに対応していましたが、欧米をはじめ国内外のお客様からの強い要望に応えるため、販売しているすべての機種の電子マニュアルを現在整備中です。その際に、お客様の使い勝手を考慮した簡易検索機能や、安全に関する記述の改訂も実施しています。また、環境面では「紙削減による資源削減」や「複写機稼動時間短縮による電力削減」、「CD化による保管スペース削減」などの効果が徐々に出ています。さらに次期テーマとして、WEB上での閲覧や機械本体への組み込みなど、新たな提供方法も検討しています。

今後も"お客様の使い勝手"と"製品安全"さらに"環境配慮"の視点からより高品質な取扱説明書を、よりタイムリーに提供していきます。

●ホスピタリティの向上

シチズンプラザは、グループのなかでも数少ない、お客様と直接接している企業です。多いときでは1日に2,000人以上のお客様が来場されます。従業員一同ホスピタリティの向上に努めていますが、リニューアルオープンしたアイススケート部門では、安全第一をモットーに、運営体制の改善に取り組んでいます。主な取り組みとして①入退場システムを導入し、常に入退場者数を把握して安全滑走ができるよう管理②リンク内の照明を従来の2倍の明るさへ変更③リンク内の安全パトロールを常に行う④英語の注意事項を掲載した安全マニュアルの作成などです。とくに安全マニュアルはお子様にも読んでもらえるよう、イラストを中心に、当リンク内で実際に発生した事故例を考えて編集しています。スケート教室のお子様や一般滑走のお客様に配布して、安全の啓発を行っています。今後も、お客様がスケートを楽しんで満足していただけるよう日々努めていきます。

安全マニュアル「リンクの妖精たちへ」

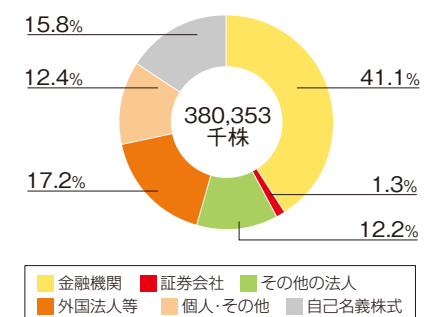
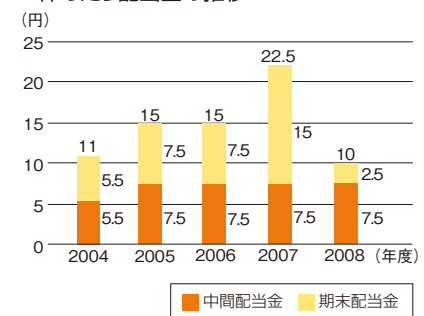
株主・投資家とシチズン

シチズンホールディングスは、顧客や株主、お取引先、あるいは地域社会など、さまざまなステークホルダーの皆様と日々の対話を通じて良好な関係を築き、企業価値の向上と、またそれにふさわしい株価の形成をめざしています。その達成に向け、信頼性の高い情報の適時・適切な開示を徹底し、金融商品市場における健全かつ公正な価格形成と円滑な流通の確保に努めています。また、年4回の決算発表と決算説明会、個別ミーティングや各IRイベントを実施し、また同時に、自社WEBサイトの内容充実を進めることで、より多くの皆様とのコミュニケーション機会の増加に取り組んでいます。

シチズンホールディングス 常務取締役 山田 修

利益還元方針

シチズンホールディングスは、配当および自己株式取得の合計額の、連結当期純利益に対する比率を「株主還元性向」と捉えています。この方針を定めた2005年度以降、3年～5年の期間で比率を平均30%以上とすることをめざしています。配当につきましては、連結業績との連動と安定配当のバランスを勘案し決定します。また、自己株式取得については、一株あたりの利益増加による株主還元とともに、資本効率の向上をめざしています。

所有者別株式分布（2009年3月31日現在）

1株あたり配当金の推移

情報開示とIR活動

シチズンホールディングスは、株主・投資家の皆様との日々の対話が株主構成の裾野を広げ、企業価値にふさわしい株価形成につながると考え、株主・投資家の意思決定に必要な信頼性の高い情報を適時・適切に開示するよう努めています。

IR活動では、情報ニーズの把握と対話を重視しており、年4回の決算発表と決算説明会をはじめ、個別ミーティング、工場見学会、IRイベントや証券会社で行われるカンファレンスへの参加など、コミュニケーションの機会を増やしています。また、自社のWEBサイトや説明会資料の整備、内容の充実にも取り組んでいます。

開かれた株主総会

シチズンホールディングスは、より多くの株主の皆様に定時株主総会に出席していただけるよう、集中日を避け、収容人数や交通アクセスに配慮して会場を決定しています。

2008年6月の総会には、337名の株主の皆様に出席いただきました。また、2007年の総会からは、議決権を行使しやすいよう、機関投資家向け議決権電子行使プラットフォームの利用を可能にしました。さらに、シチズングループにより親しんでいただけるよう、種々製品展示を行うとともに、意見や質問をいただきやすい仕組みづくり、スムーズな運営などを心がけています。

インサイダー取引の防止

シチズングループは、インサイダー取引を未然に防ぐための規則の制定・変更などの必要な手続きを順次実施しています。シチズンホールディングスと国内連結子会社各社では、各役員と重要事実を扱う可能性が高い社員による売買を、許可制としています。

外部機関からの評価

シチズンホールディングスは、2004年から5年連続で、ベルギーのSRI（社会的責任投資）評価機関であるエティベル社の「エティベル・サスティナビリティー・インデックス」に選ばれています。また、財務内容において、2009年3月現在、ムーディーズ社から「A2」（信用力が高く、信用リスクが極めて低いと判断される債務に対する格付け）を取得しています。

特集
CSRの基盤
社会とシチズン
環境とシチズン

お取引先とシチズン

シチズングループはお取引先との関係を重要視して、常に良好な関係を築くべく努力するとともに、相互に切磋琢磨しながら成長するビジネスパートナーでありたいと願っています。そのため、シチズングループ各社では、お取引先との日常的な対話を通じて自社の方針をお伝えするとともに、お取引先からは購入資材に関する市場動向・品質・価格・デリバリーに関する改善提案をいただき、双方が共通の認識に立った資材購買取引ができる環境づくりに取り組んでいます。さらに「グループ下請取引適正化委員会」を設置し、定期的な教育や監査を行い、積極的に下請法を遵守しています。

シチズンビジネスエキスパート
取締役
木野 晴夫

購買の基本的な考え方

●お取引先との相互の信頼関係構築をめざして

シチズングループは、より良い製品をつくるために、ビジネスパートナーであるお取引先とともに発展・成長することをめざしています。

資材・サービスの調達活動にあたっては、各種法令を遵守するとともに、お取引先とのより公正で透明な取引と相互信頼関係の構築を進めています。

2007年度の純粋持株会社体制移行に伴い、各事業会社では調達機能を強化する体制を整え、お取引先との対話を積極的に行うなど、より緊密な連携体制づくりを進めています。2008年度は、グループ各社のお取引情報を一元化した「シチズングループお取引先データベース」の構築に着手するなど、よりグループ会社間の連携強化を推進しています。

●CSR調達

シチズングループは、「シチズングループ企業行動憲章」および「国連グローバル・コンパクト」の精神に基づき、法令遵守や環境・人権への配慮など、CSRを積極的に推進するお取引先と強固なパートナーシップを構築したいと考えています。

グループ各社の取り組み

●シチズンセイミツの取り組み

シチズンセイミツでは、商取引に関係する下請法、安全保障貿易関連法令を遵守し、お取引先との健全な関係を維持するため、年1回の内部監査を実施しています。今後も引き続き従業員への法令周知の徹底を進め、お取引先と相互信頼のパートナーとしての関係づくりに努めていきます。

●シチズンマシナリーの取り組み

シチズンマシナリーでは、より良いパートナー関係を築くために、定期的にお取引先への会社方針説明会を実施し、情報共有を行っています。

2008年度は、市場動向・品質・リードタイムなどについて活発な意見交換を実施しました。2009年度上期には、「購買発注管理規程」や「取引業者選定規程」を見直し、経営理念の徹底・強化を進めていきます。

お取引先への会社方針説明会

Voice

お取引先とのコミュニケーション

シチズン時計の総務部購買課は、時計用の直接材料・電子部品および間接材料などの調達を行っています。お客様に満足いただける製品や商品をつくるためには、新素材や新機能の開発・安定供給・品質管理が極めて重要であり、そのためにはお取引先との協力関係が欠かせません。

お取引先と良好な信頼関係を築く上では、コミュニケーションが最も大切です。重要なパートナーとして、日常業務での対話(情報交換)や、キーパーツとなる材料・部品の定期的な技術・品質ミーティングを設け、共通の目標のもとに、お取引先との相互理解、より良い関係づくりに努めています。

シチズン時計
総務部 購買課 課長
芳野 淳

従業員とシチズン

2008年度は「人に視点を置いた経営」〜人(従業員)が活かされる環境づくりへの第一歩〜 と位置づけ、活動してきました。まずは、従業員が自分の力を存分に発揮できる場を提供し、本人がそれを実感できる環境をつくることが重要だと思います。グループ会社の隅々に至るまで人に目を向けることから始め、人材の育成や有効活用を図るための仕組みづくりを、継続的に進めていきます。2008年度は人材育成の観点から、各社において将来的に経営の担い手として期待される人材を選出し、事業会社を跨ぐローテーションを実施いたしました。

シチズンホールディングス
取締役
柿島 雄

多様性の尊重

●グループ方針

シチズングループは従業員一人ひとりを尊重し、多様性を認め、活かせる環境をつくることが経営の責務であると考えています。

●採用活動と正社員への登用

シチズングループ各社は中長期的視野に立った、定期的な新卒採用や即戦力としてのキャリア採用を実施しています。また、有期雇用の契約社員を本人のやる気や能力などにより、定期的に正社員へ登用しています。雇用にあたっては、一人ひとりの能力・適性・意欲を重視して、機会の均等と多様性の確保に努めています。

採用状況 (グループ主要17社)

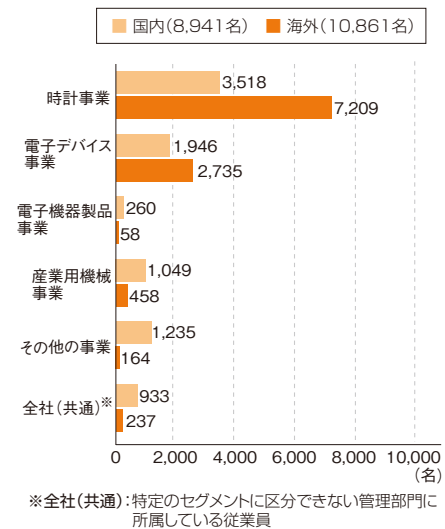
新卒採用

	2007年度	2008年度
男	122名	91名
女	41名	32名
計	163名	123名

中途採用

	2007年度	2008年度
男	52名	51名
女	35名	10名
計	87名	61名

事業セグメント別従業員数
(2009年3月31日現在)

※全社(共通):特定のセグメントに区分できない管理部門に所属している従業員

●障がい者雇用の促進

「ともに働く」を基本方針に、障がい者雇用に積極的に取り組んでいます。2008年度の雇用率は、法令に基づく届出(6月1日現在)では前年度を下回りましたが、その後の採用活動を通じて2009年3月末時点では前年並みまで改善しました。今後も引き続き雇用拡大、職域拡大に努めていきます。

障がい者雇用状況 (グループ主要17社)

	2007年度	2008年度
雇用率	1.64%	1.58%

(注)各社の公共職業安定所あて報告状況〈2008年6月1日現在〉をもとに集計

事例紹介 シチズン時計

社内コミュニケーションの充実

シチズン時計の技術開発本部では、年度方針として風土改革・人材育成を掲げ、その一環として、コミュニケーション強化による総合力の発揮を重点実施項目としています。大きな組織なので、①日頃の業務のなかでは全員とのコミュニケーションをとるのが難しいこと、②部門の枠を超えた従業員同士の交流が少ないことが課題としてありました。

これらを解決するため、本部長、副本部長と従業員との昼食会を毎月2〜3回継続して行っています。一度食事をともにすることで、社内で会った時に自然と挨拶が交わされ、いろいろな相談ができる雰囲気になりました。若年層からは、「緊張する昼食会でしたが、本部長や副本部長と初めて会話ができて人柄がわかりました」「他部門の人の話を聞く機会になった」との感想が寄せられています。全従業員参加ができるよう、今後も昼食会を継続していきます。

昼食会の様子

特集
CSRの基盤
社会とシチズン
環境とシチズン

従業員とシチズン

人材の育成

●グループ方針

シチズングループは、各事業会社の方針と責任において、事業環境に適応できる人材を育成しています。グループ対象の育成メニューとして、シチズンホールディングスが主催する階層別教育と、シチズングループ各社で展開する教育があり、総合的な人材育成環境を整備しています。

●グループ共通の階層別人材育成プログラム

シチズンホールディングスはグループ全体の視点から、職種を問わず各階層を対象にした、グループ共通の教育プログラム「シチズンユニバーシティ」をグループ各社へ提供しています。

2008年度は、従来からの若手・中堅・新管理職向けに加え、新任役員向けのメニューを新たに追加し、充実を図りました。

今後は、参加者にとってより有益な内容となるように、自らの意志で申し込みが可能な仕組みや研修評価など、グループ従業員にとってさらに効果的な内容をめざします。

●時計事業における「能力開発体系」の展開

シチズン時計では、時計技能教育に加え、2008年度はリーガルマインド教育(法務実務)を中心に、毎月第3週に研修を開催し、「能力開発体系」を展開しています。職種別専門教育の拡大など、カリキュラムの充実を図りながら、時計技能教育のレベルアップをめざしていきます。

またシチズン平和時計では、国内生産の優位性を確保していくための取り組みが行われています。製品の裏に隠されている「どういう人が、どういった環境で、どういった思いを込めてつくっているのか」というものづくりの思想をものづくりブランドとしてとらえ、これらを実現するためのステップを文献にて紹介し、2008年9月に全国IE(インダストリアル・エンジニアリング)大会において、「日本IE文献賞」を受賞しました。

日本IE文献賞盾

ワークライフバランスの促進

●グループ方針

シチズングループは、仕事と生活を両立させながら働きやすい環境をつくるための、仕組みづくりに取り組んでいきます。

●各種制度を弾力的に運用

シチズングループは、プール休暇(失効年休の保存積立制度)の使用や、職場の実情にあった勤務形態の弾力的な運用など、従業員が各種制度を取得しやすい環境づくりに取り組んでいます。

シチズン時計では、次世代育成支援対策推進の継続的な取り組みとして、育児に関わる従業員の就業時間の短縮期間を、従来の小学校就学始期までから小学校3学年修了までに拡大しました。介護休職に関しては、利便性を向上させるため、就業時間の短縮を従来の1時間から2時間に拡大しました。今後の課題としては、男性従業員が育児休職制度を利用しやすい職場環境づくりを進めていくことが挙げられます。

育児休職制度利用状況(グループ主要17社)

	2007年度	2008年度
男	0名	0名
女	50名	51名
計	50名	51名

介護休職制度利用状況(グループ主要17社)

	2007年度	2008年度
男	0名	0名
女	2名	4名
計	2名	4名

また、東京・所沢事業所を中心に、「シチズンファミリー見学会(子ども参観日)」を実施しています。これは、「普段、父親や母親がどのような職場でどんな仕事をしているのか」を子どもたちに見てもらい、家族のコミュニケーションを高めてもらうことが目的です。

シチズンファミリー見学会の様子

安全・健康に働きやすい環境づくり

●グループとしての取り組み

シチズングループでは「安全と健康の確保」を大方針とし、「休業災害ゼロ」をめざした活動を行っています。それを受けて各社では状況に応じた重点施策を掲げ、年間計画を作成し活動を行っています。

グループ安全衛生活動報告会は製造部門をもつグループ会社を集めて年2回行っています。各社の活動計画や実績を報告し、情報を共有化するとともに安全衛生活動のレベルアップを図っています。また2008年11月の報告会では、「健康保持増進についての取り組み」と「新型インフルエンザへの対応」の2テーマについてグループ討議を行い、現状認識と今後の取り組み方を検討しました。

●セクハラ・パワハラ防止の取り組みを推進

事例紹介　シチズン狭山

「職場ハラスメントの発生防止」に向けての研修を実施

シチズン狭山グループ各社では、「職場ハラスメントの発生」を未然に防止するため、従業員全員に研修を行っています。内容は、各ハラスメントの特徴、職場・個人への影響、発生原因などです。

とくに「モラルハラスメント」は、自分では気づかず繰り返される場合があり、誰もが加害者になる可能性があります。

それらを防止するために、「周りがどう感じているか」を自分自身で気づき、考え方・行動を修正するために、「加害者や被害者になる可能性チェックシート」を使った研修を実施しています。併せて、「企業倫理相談窓口」の活用についても社内周知に取り組んでいます。

●メンタルヘルス活動を強化

事例紹介　シチズンビジネスエキスパート

東京事業所・所沢事業所・東京営業センターのメンタルヘルスの啓発

2004年にメンタルヘルスプロジェクトを発足させ、2007年からは「メンタルヘルス委員会」として活動強化を図っています。メンタルヘルス不調者を出さないための予防活動として、委員が各職場を巡回しての啓発活動や、毎年全従業員を対象にセルフケアの強化と職場環境改善を目的にストレスチェック診断を実施し、職場ごとに診断結果をフィードバックしています。

また、相談窓口を社内外に開設し、ストレスチェック後などの予防面談とともに、不調者への対応や休職者の職場復帰も随時、職場と連携しながら実施しています。今後は、新入社員・30歳・新上級職・管理職など、階層別の研修にも一層注力し、過重労働者の面談および職場へのフィードバックを行いながら、ラインケアをより充実させていく予定です。

●東京事業所・所沢事業所・東京営業センターでの安全活動

東京事業所・所沢事業所・東京営業センターでは、従業員の安全と健康を守るため、「健康経営」のスローガンのもと、労働安全衛生に関する明確な目標と具体的な行動計画を作成し、活動を推進しています。

シチズン東京事業所では小さな事故の防止が大事故の防止につながるとの考え方から、年間活動計画に沿った安全教育として、RST(労働省方式セーフティトレーニング)・KYT(危険予知トレーニング)などを実施するとともに、「安全衛生委員会」において事故事例を検証し再発防止を図っています。安全週間・衛生週間・年末年始にはパトロールを実施し、不安全状態がないかをチェックし、各職場ではリスクアセスメントを実施して、職場における危険の芽を事前に摘み取る活動を行っています。

災害発生状況(グループ主要17社)

	2007年度	2008年度
死亡事故数	0件	0件
休業事故数	6件	3件

さらに新規化学物質を導入するときは、「新規物質審査申請書」に「リスクアセスメント実施記録」およびMSDS(製品安全データシート)を添付して、「新規物質事前審査会」に使用申請を行い、審査会ではその物質の安全性や環境への影響を審査する活動を行っています。

今後は労働安全衛生マネジメントシステムの導入で、労働災害の潜在的危険性を低減するとともに、従業員の健康増進と快適な職場環境の形成を図っていきます。

●健康増進へのサポート

シチズングループでは、従業員が心身ともに健康な状態で働くことができるように、さまざまな活動を行っています。健康診断の結果をもとに、必要な従業員に保健指導や再検査を行っています。また、病気を抱えている従業員が安心して働くことができるように、職場復帰支援や定期的なフォローを実施しています。

さらに従業員がより健康になるために、禁煙サポートやウオーキングイベント、各種講習会の実施、グループ誌やイントラネットを通じて健康情報を配信し健康増進活動をサポートしています。

産業医による保健指導

人権と労使関係

シチズングループ各社では、経営施策や労働条件について、従業員を代表する労働組合と会社の双方が、互いの考え方を尊重しつつ定期的に交渉・協議しており、安定した労使関係を構築しています。

今後も、グループ各社の一層の企業価値向上と、従業員の満足度の向上を図っていくため、グループ運営体制や事業の再編などをテーマに協議を進めていきます。

事例紹介

シチズン労働組合の社会貢献表彰

シチズン労働組合では、シチズンホールディングスが実施している「シチズン・オブ・ザ・イヤー」にならい、従業員を対象とした「社会貢献表彰」を年に一度、行っています。仕事としてではなく私生活のなかで、社会福祉や環境保全などをはじめとしたさまざまな社会貢献活動に、積極的に取り組んでいる従業員を表彰するものです。2003年からはじまったこの制度では、延べ10人の従業員が表彰されました。

地域社会とシチズン

シチズングループは、シチズングループ企業行動憲章第5条に「良き企業市民として、地域社会との共生を大切にし、社会貢献活動に努めます」と謳っています。社会の一員として、社会に役立つ事業活動を行い、グループ各社が関わりをもち、地域社会とのつながりを大切にし、地域の活性化に協力していきます。

また、地域の行政やNPO／NGO、ボランティア団体など、必要なパートナーとの連携を行いながら、「良き企業市民」としての役割を果たしていきます。

シチズンセイミツ
代表取締役社長
久田 志郎

シチズン・オブ・ザ・イヤー

シチズン・オブ・ザ・イヤーは、市民に感動を与え、市民社会の発展や幸せ・魅力づくりに貢献した無名の市民を毎年選び、顕彰する制度です。創業60周年記念事業として社名の「CITIZEN(市民)」にふさわしい顕彰をするために1990年に創設されました。

19回目となる2008年度の受賞は、右記の方々です。

「2008年度 シチズン・オブ・ザ・イヤー」表彰式

シチズン・オブ・ザ・イヤー
http://www.citizen.co.jp/social/region/area/coy.html

**●伊藤 和也さん(故人)
(静岡県掛川市)**

戦渦のアフガニスタンを、子どもたちが食料に困ることのない緑豊かな国にするために、知識を活かして農業支援に取り組みました。

**●川崎個人タクシー協同組合の皆さん
(神奈川県川崎市)**

川崎個人タクシー協同組合の皆さんは、同じ市内にある知的障がい者施設・川崎市立しいのき学園の子どもたちを、タクシーで遠足に連れていく活動を30年間続けています。

**●鹿児島県出水市立 荘中学校の皆さん
(鹿児島県出水市)**

全校一体となり、真冬の早朝にツルの羽数を数え、公式記録とする活動を50年以上も続けています。

海外での活動

タイ国立サラブリ病院での献血活動

ROYAL TIME CITI では、2008年度2回にわたり献血活動に取り組みました。社員の夫が白血病で、治療に大量の輸血が必要になったことから82名の従業員が参加。今後も積極的に献血活動を継続していきたいと考えています。

中国の教育支援活動

冠利製造廠では、将来の技術者の育成を目的に「広東省軽工業高級技工学校」の37名に援助を行いました。工場見学や工場実習の支援も実施し、こうした体験を通して、2009年5月現在11名の卒業生が冠利製造廠で活躍しています。

国内での活動

クリーン作戦など環境保全&美化活動

シチズンセイミツは、恵まれた自然環境を次世代に残すため、地域の清掃活動に積極的に参加しています。富士山をきれいにする会が主催する「富士山クリーン作戦」、「富士河口湖町クリーンアップキャンペーン」には合計約600名の従業員が参加しました。

四川大地震援助

シチズングループは、中国・四川大地震における救援・復興活動支援として、日本赤十字・経団連募金・中国赤十字などを経由し、総額5,000万円の義援金ならびに見舞金を寄付させていただきました。

健康イベント協賛

シチズン・システムズは、各種イベントに協賛し、歩数計をはじめとする健康機器を紹介し、健康づくりのお手伝いをしています。第13回東京国際スリーデーマーチ(東京都小金井市)、第31回日本スリーデーマーチ(埼玉県東松山市)に協賛しました。

ものづくりの楽しさを伝える活動

シチズングループ各社は、中学生の職場体験学習やインターンシップを積極的に受け入れています。シチズン東北では、ものづくりに挑戦する次世代を育成するために、地域の小学生4、5年生を対象に工場見学と時計学校を開きました。顕微鏡をのぞいてピンセットで小さな部品をつかんだり、日時計の組み立てを楽しんでいました。2009年3月までに9団体347名の方に参加していただきました。

卓球部の社会貢献活動

創部40有余年の伝統と、高い実力を誇るシチズンホールディングス卓球部は、全国各地で卓球教室や講習会を行っています。2008年度は9都県で計22回実施し、2,980名の方に参加していただきました。

オオルリシジミ保護活動

シチズンファインテックミヨタ北御牧事業所では、絶滅にひんしたオオルリシジミ蝶の復活を願って、第4回親子観察会を開催しました。オオルリシジミを守る会の会長より「30年前の状態に復活。蝶の発生もここ数年倍増している」との報告がありました。

火祭り・龍神まつり、伝統文化を守る活動

シチズングループは地域の伝統行事に積極的に参加することで、地域の活性化に協力しています。シチズン電子、シチズンセイミツは、日本三大奇祭の一つと言われる、「吉田の火祭り」で、大松明を奉納し、登山の無事とご利益を感謝しました。シチズンファインテックミヨタは「龍神まつり」の舞踊流しに104名が参加しました。

シチズングループの社会貢献活動
http://www.citizen.co.jp/social/region/area/group.html

シチズングループの環境経営

「市民に愛され市民に貢献する」を理念に掲げているシチズングループは当然のことながら地球と人にやさしい製品を提供することが第一の使命であり、それに加えて人にそして地球にやさしい製造方法を実践する責務があると考えています。

グループ共通の環境指針である「シチズン環境長期計画2010」で掲げた1)環境経営の推進、2)環境配慮型製品の推進、3)工場における環境配慮の推進、4)エコライフスタイルの啓発・推進のそれぞれについて、着実な前進を積み重ねて「シチズン環境社会ビジョン(2025)」を実現させます。

シチズンホールディングス
取締役
柿島　雄

環境社会ビジョンと環境長期計画

持続可能な社会のために、そして、これからの地球環境のために、シチズングループはどのような活動を行うべきか―その方向を定めたのが、シチズン環境社会ビジョン(2025)です。

シチズングループは、「市民に愛され市民に貢献する」を企業理念に、常に人々の身近にあり、人々の役に立ち、地球と人にやさしく、人間らしさを尊ぶ製品の提供を、真摯に追求し続けています。環境保全への取り組みもまた同様で、常に人々の豊かな未来を見つめ、人々が心豊かに安心して暮らせる、持続可能な市民社会を築くために成すべきことを、積極的に実践していきたいと考えています。

シチズン環境社会ビジョン(2025)は、地道で確実な取り組みの積み重ねの上にこそ、実現できるものだと考えています。そのため、2010年度に到達しておくべき姿を示したものが「シチズン環境長期計画2010」です。「環境経営の推進」「環境配慮型製品の推進」「工場における環境配慮の推進」「エコライフスタイルの啓発・推進」を4つの柱に、着実に実践していきます。そして、シチズングループが生み出す、すべての製品が環境配慮型製品であること、すべての生産拠点でCO_2排出量を減らし、ごみゼロの実現をめざすことで、循環型社会の一員として社会的責任を果たしていきます。

シチズン環境社会ビジョン(2025)

シチズンは
『市民に愛され市民に貢献する』
という理念に基づき、
人々が心豊かに安心して暮らせる
持続可能な市民社会に貢献します。
シチズンは"一番近くで"
地球と人にやさしい製品をお届けします。

2004年7月20日策定
2007年4月　1日改訂

シチズン環境長期計画2010

●環境経営の推進

1. グローバルな環境法規制および潮流への積極的対応
2. ステークホルダーとのコミュニケーションおよび経営への反映
3. 環境経営のグループ会社への展開

●環境配慮型製品の推進

1. **製品の環境負荷低減**
   ①企画・開発時での配慮
   ・製品の小型化の促進
   ・部品の共通化、素材の統一化の強化
   ・長寿命製品の開発
   ・LCAの活用
   ②使用時での配慮
   ・省エネルギー製品開発の促進
   ・電池交換不要の製品開発の促進
   ③廃棄時での配慮
   ・再資源化の推進
   ④包装での配慮
   ・包装材料のリユースへの取り組み
   ・包装材料のマテリアルリサイクルへの取り組み
   ・包装材料の減量化
2. **製品の環境負荷情報の公表**

●工場における環境配慮の推進

1. **資源の有効活用**
   ・資源の効率活用
   ・ごみゼロの促進
   ・化学物質排出量の削減強化
2. **CO_2排出量の削減**
   ・CO_2排出量の削減(2000年度基準で−10%)
   ・エネルギーシステムの高効率化
3. **グリーン調達の強化**
   ・調達先、供給先と協力して製品に含まれる化学物質の管理体制の強化
4. **環境技術の推進**
   ・グローバルな環境規制に対応する技術の推進

●エコライフスタイルの啓発・推進(持続可能な社会への寄与)

1. **環境配慮型製品の普及・広報**
2. **人材育成**
   ・社員教育体制の整備
3. **地域社会とのコミュニケーション**
   ・行政・地域社会とのコミュニケーションの推進

2004年7月20日策定
2007年4月　1日改訂

2008年度環境目標・実績と2009年度環境目標

○達成　△ほぼ達成　×未達成

2008年度目標	2008年度実績	評価	2009年度目標	参照
1.環境配慮型製品の充実			**1.環境配慮型製品の充実**	
新規モデル環境配慮型製品率 100%	電子機器製品群で100%、時計製品群で99%	△	新規モデル環境配慮型製品率100%を維持	P39
スーパー環境配慮型製品の開発	企画・開発まで至らず	×	スーパー環境配慮型製品の開発	
LCAの活用	電卓用プリンターのLCAデータの開示	○	EuP指令への対応準備	
グリーン調達の運用の充実	各社でグリーン調達の実施	○	REACH規則に対応した製品含有化学物質の管理システム構築	
REACH規則※に対応した製品含有化学物質の管理システム構築準備	REACH規則に対応した管理システムの導入	○		
2. 環境にやさしい事業活動			**2. 環境にやさしい事業活動**	
各部門1テーマ以上実施(東京・所沢)	(東京:25部門)84テーマ実施 (所沢:11部門)39テーマ実施	○	各部門1テーマ以上実施(東京・所沢)	P35 P36
3. 地球温暖化ガスの削減			**3. 地球温暖化ガスの削減**	
(東京)CO_2排出量の削減 1999年度比▲44%(13,300 t-CO_2)	1999年度比 ▲49%(12,064t-CO_2)	○	(東京)CO_2排出量の削減 1999年度比▲50%(11,900 t-CO_2)	P41
(所沢)CO_2排出量の削減 1999年度比▲14%(10,533 t-CO_2)	1999年度比 ▲16%(10,195t-CO_2)	○	(所沢)CO_2排出量の削減 1999年度比▲17%(10,080 t-CO_2)	
(グループ)CO_2排出量の削減 2007年度比▲1%(売上高原単位)	2007年度比 10%(売上高原単位)	×	(グループ)CO_2排出量の削減 2008年度比▲1%(売上高原単位)	
4.廃棄物削減活動の推進			**4.廃棄物削減活動の推進**	
(東京)産業廃棄物の削減　維持管理	1999年度比 ▲78%(123t)	○	(東京)産業廃棄物の削減　維持管理	P42
(所沢)産業廃棄物の削減　維持管理	1999年度比 ▲53%(80t)	○	(所沢)産業廃棄物の削減　維持管理	
(グループ)廃棄物量の削減 2007年度比▲1%(売上高原単位)	2007年度比 3%(売上高原単位)	×	(グループ)廃棄物量の削減 2008年度比▲1%(売上高原単位)	
(グループ)再資源化率　98%	98%	○	(グループ)再資源化率　99%	
5.化学物質の削減			**5.化学物質の削減**	
(グループ)シアン化合物の代替化の推進	当該各社で推進中	○	(グループ)シアン化合物の代替化の推進	P40

※**REACH規則**:EUにおける化学物質の登録、評価、認可、および制限に関する規則
東京事業所:シチズンホールディングス、シチズンビジネスエキスパート、シチズン時計、シチズン・システムズ、シチズン物流サービス
所沢事業所:シチズンホールディングス、シチズンビジネスエキスパート、シチズン時計
2009年3月31日現在

環境マネジメント

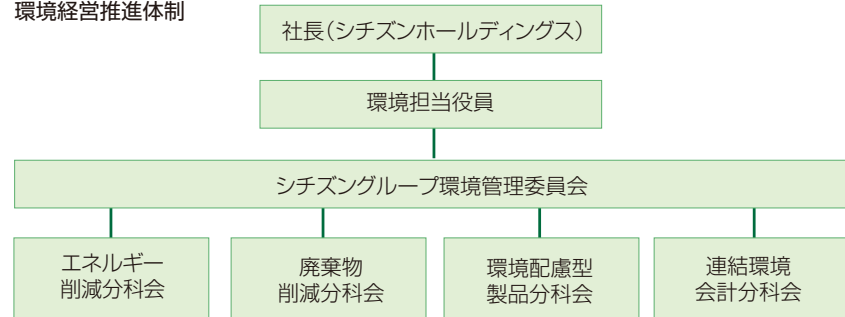
シチズングループは、グループを横断した環境管理体制を構築して、「グループ全体での最適化」をめざし、効率良く着実な成果を出せる環境経営を進めています。

環境経営推進体制

シチズングループは、効率的かつ的確に環境経営を推進するため、グループ横断の環境管理体制を構築しています。年2回、国内19社の環境担当責任者が集まって「グループ環境管理委員会」を開催し、各社の活動状況を把握するとともに、年度の環境経営方針、共通課題を検討・決定しています。その下部組織として、「エネルギー削減」「廃棄物削減」「環境配慮型製品」などの専門分科会があり、それぞれ具体的な施策を推進しています。

環境経営推進体制

- 社長（シチズンホールディングス）
  - 環境担当役員
    - シチズングループ環境管理委員会
      - エネルギー削減分科会
      - 廃棄物削減分科会
      - 環境配慮型製品分科会
      - 連結環境会計分科会

ISO認証取得状況
http://www.citizen.co.jp/social/kankyo/iso.html

グループ会社の環境マネジメント

国内28の生産会社は、ISO14001の認証を取得しており、各社ごとに業態の特徴を出した環境管理活動を推進しています。

海外の生産会社は、環境配慮型製品を製造する上で重要となるグリーン調達や、化学物質管理に重点を置いた活動を展開しながら、順次ISO14001の認証取得を進めています。

また、非生産業務に携わる会社は、各社の特徴にあわせた環境負荷低減活動を行っています。

環境教育と啓発活動

環境経営を推進するためには、グループの従業員全員が環境活動の重要性を認識することが不可欠です。たとえばシチズン東京事業所では、教育体系に基づく新入社員教育などに、環境教育を組み込んでいます。また、各部門の環境実務担当者を対象にした「環境担当者教育」や「内部監査員養成教育」および「環境法令順守評価教育」を年1回実施しています。毒劇物や危険物を扱う生産部門においては、緊急事態を想定した訓練も実施しています。

さらに、自主的な資格取得を奨励する独自の「ビジネスライセンス制度」を設け、公害防止管理者、エネルギー管理士などの公的資格の取得をバックアップしています。

6月の環境月間や12月の地球温暖化防止月間では、環境映画の上映や、エコメッセージをつけた花の種を出勤時に手渡しするなどの取り組みを行いました。

「不都合な真実」の上映会

花の種配布

事例紹介　シチズンファインテックミヨタ

環境家計簿の取り組み

「地球温暖化」は、私たちが快適な生活をしていく上で生じる、エネルギーの大量消費などが一因となっています。こうした現状を背景に、家庭を出発点に、個人の環境に対する認識を深めることと、行動力を高めることを主な狙いとして「環境家計簿」制度を導入しました。「環境家計簿」とは、家庭で使用するエネルギー使用量を記録し、生活していく上でどれだけCO_2を発生しているかを把握することです。家庭で削減の取り組みを行ってもらい、活動内容および削減効果に応じて表彰します。

「遊び心をベースに懐を暖かく環境にも優しさを」をスローガンに、取り組みを行います。2009年度は本格導入元年であり、社員の約17%にあたる148名のチャレンジャーが、CO_2の削減に向けて「家族ぐるみ」の活動を開始しました。

家族ぐるみのチャレンジャー

環境監査

シチズン東京事業所と所沢事業所では、年1回のISO審査機関による外部監査と、原則年2回の内部監査を実施しています。

事例紹介　シチズンビジネスエキスパート

西東京市環境ウォッチング

地域住民の皆様をお招きしての「シチズン東京事業所環境ウォッチング」を2009年2月12日に催しました。このイベントは西東京市役所主催で行われ、市内の数社を巡るツアーとして企画されました。見学では、産業廃棄物の分別状況や省エネ施設の説明に、熱心に耳を傾けていただき、見学後の質疑では、照明の間引きや再資源化率、ゴミのリサイクルなどについて、熱心なご質問・ご意見をいただきました。参加者からは「シチズンは環境に積極的に取り組んでることを実感した」「参考になることがあり勉強できた」「もっと緑が増えるといいな」などの感想がありました。

産業廃棄物の分別状況の説明

環境リスクマネジメント

シチズングループでは、環境法規制の遵守、製品含有化学物質の管理、廃棄物・リサイクルガバナンスの構築、土壌・地下水汚染対策などを、環境リスクマネジメントの対象としており、グループ環境管理委員会での情報交換を通じて、有効な施策をグループ各社に適用しています。

●土壌・地下水調査と対策状況

2006年度に国内外の生産拠点で有害物質の使用履歴調査を実施し、対応を5段階で評価しました。現在、汚染リスクが高いと思われる拠点については、順次土壌や地下水の自主調査を行っています。自主調査の結果、汚染が判明した拠点については、行政に報告し、指導を仰ぎながら対策を実施しています。

土壌・地下水調査の結果と対策状況

事業所名	汚染物質	対策	対策状況
シチズンファインテックミヨタ、シチズンマシナリー	揮発性有機化合物	揚水曝気および活性炭吸着	2006年4月から対策継続中
シチズン東北	揮発性有機化合物	浄化フィルター（透過反応壁）	2007年5月から対策継続中

事例紹介　シチズンセイミツ

フッ素排水異常について

2008年9月、山梨県森林環境部の排水立入調査があり、山梨県生活保全条例の基準値（5ppm）に対して違反しているとの指摘を受けました。県の指導に沿って、生産工程と排水処理の対策を進め、県の再調査の結果、適合となりました。

今回の問題の原因は、山梨県生活保全条例のフッ素排水などの基準値が改定されたことを暫定と解釈し、正しい基準値で監視できていなかったことによります。今後は定期的に法令・条例を確認し、正しい基準値で監視を継続していきます。今回の問題発生を深く反省し、再発しないように決められたルールを遵守します。

粗洗浄槽を1槽追加設置し、粗洗浄液を回収するようにしました。

排水処理装置を改造し、フッ素除去ができるようにしました。

事例紹介　シチズン東北

シチズン東北の排水処理の管理

表面処理工程での処理液を施設外へ流出しない安全・安心を最優先にした地上型の排水処理施設を2003年に建設しました。また配管（現場から施設）においては、地下の共同溝（人が歩けるコンクリート製）に設置しました。万一、施設、配管から漏洩があっても早期に発見ができ、迅速な対応ができる施設となっています。

排水処理の管理項目は北上市下水道条例の排水規制項目のうち弊社が使用している18項目について、自社にて分析し管理をしています。そのうち4項目（温度、Ph、P、N）は1時間ごと、他は、1日1回分析を行います。さらに、毎月1回は第三者機関に分析委託し管理をしています。共同溝配管も毎月1回パトロールを実施しています。

2008年の6月、7月岩手で起きた二度の大地震、何れも就業時間外でしたが排水処理施設、表面処理現場の各管理者は発生後迅速に緊急出勤し、施設、共同溝内の配管、表面処理現場の異常の有無を確認しました。被害箇所は応急処置を施し、翌朝、再度状況の確認と復旧作業を行い、その後問題ないことを確認し作業を開始しました。なお、経営者へは緊急事態発生時対応マニュアルに沿って復旧完了までを逐一報告しています。

共同溝排水マスでのpHチェック

事業活動と環境負荷

グループ全体のエネルギー・化学物質などの投入量、CO_2や廃棄物などの排出量を的確に把握し、計画的な環境負荷低減活動に活かしています。

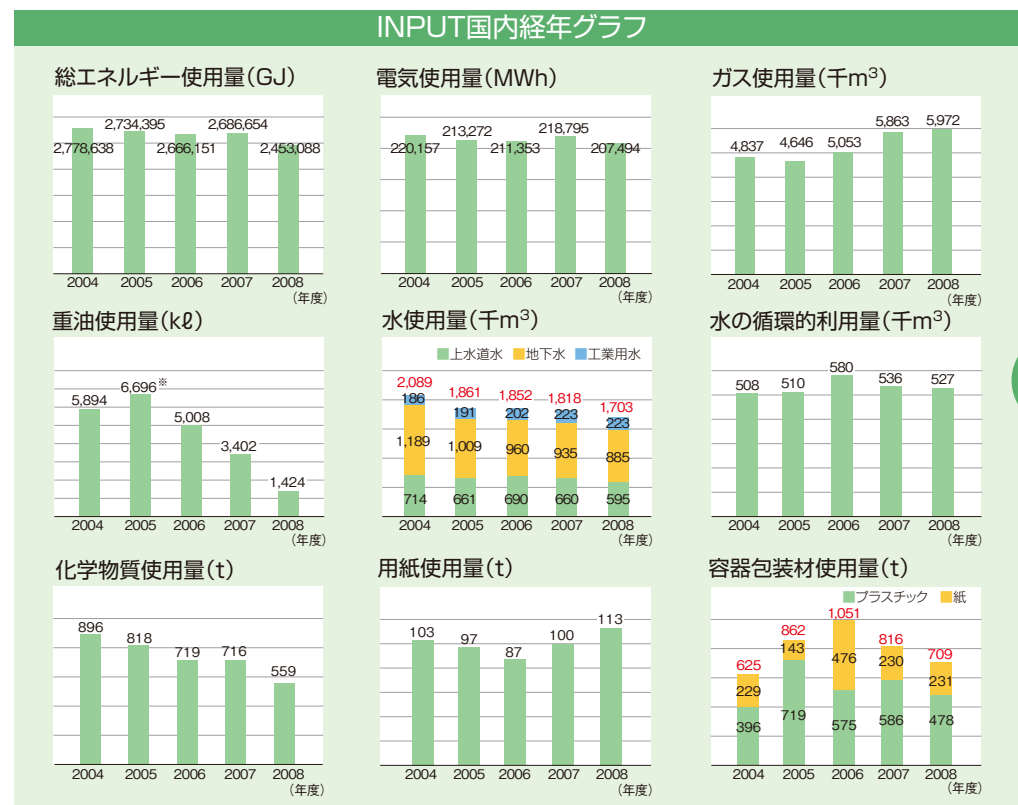
シチズングループの環境負荷状況
http://www.citizen.co.jp/social/kankyo/group.html

環境会計
http://www.citizen.co.jp/social/kankyo/accounting.html

日本におけるシチズングループの環境負荷の位置づけ
http://www.citizen.co.jp/social/kankyo/position.html

INPUT

項目	区分	数値
総エネルギー使用量(GJ)	国内	2,453,088
	海外	883,960
水使用量(千m³)	国内	1,703
	海外	1,560
水の循環的利用量(千m³)	国内	527
	海外	5
化学物質使用量(t)	国内	559
	海外	1,534
容器包装材使用量(t)	国内	709
	海外	774

INPUT国内経年グラフ

「INPUT」、「OUTPUT」データには、「物流・販売」「使用」「資材調達」段階の環境負荷は含まれていません。年度データは、集計の見直しを行ったため、昨年度の報告から数値を変更しています。

※2004年度のコージェネレーションおよび発電機設備導入により、重油使用量が増えました。

事業活動

製　造 P40~42

開発設計 P39

資材調達 P39

物流・販売 P42

使　用 P39

リサイクル／廃棄処理 P39.42

OUTPUT

項目	区分	数値
CO_2排出量(t-CO_2)	国内	97,753
	海外	34,113
NOx排出量(t)	国内	8
	海外	3
SOx排出量(t)	国内	4
	海外	4
排水量(千m³)	国内	1,386
	海外	985
BOD排出量(t)	国内	21
	海外	55
COD排出量(t)	国内	13
	海外	57
排出物量(t)	国内	6,647
	海外	1,845
埋立量(t)	国内	59
	海外	1,179

OUTPUT国内経年グラフ

環境会計

シチズンホールディングスおよび主要生産拠点と販売拠点のグループ会社を含め、対象範囲の連結環境会計を集計しました。経済効果の算定基準は実質効果のみを算出しており、いわゆるリスク回避効果とみなし効果は算定しておりません。

当該期間の投資総額は17,272百万円、研究開発費総額は12,312百万円でした。

環境保全コスト(単位:百万円)

分類		主な取り組みの内容	投資額	費用額
事業エリア内コスト			180	994
内訳	①公害防止コスト	大気汚染、水質汚濁、騒音防止	60	578
	②地球環境保全コスト	省エネルギー	117	217
	③資源循環コスト	廃棄物減量化・リサイクル、水の有効利用	3	199
上・下流コスト		容器包装リサイクル、エコマーク使用	0	21
管理活動コスト		環境教育、環境マネジメントシステムの運用、社内緑化・美化	6	367
研究開発コスト		LED照明、光発電時計、時計基礎技術の研究開発	177	482
社会活動コスト		社会貢献活動	0	3
環境損傷対応コスト		大気汚染負荷量賦課金	0	40
合計			363	1,907

環境保全対策に伴う経済効果 ―実質的効果―(単位:百万円)

	効果の内容	金額
収益	事業活動で生じた有価物の売却による事業収入	385
費用節減	省エネルギー活動によるエネルギー費の節減	201
	省資源活動による用水費、排水処理費の節減	38
	省資源またはリサイクルに伴う廃棄物処理費の節減	29
	その他	21
合計		674

マテリアルバランスと環境会計 対象期間:2008年4月1日～2009年3月31日

マテリアルバランスの集計範囲

【国内】
シチズンホールディングス／シチズンビジネスエキスパート／シチズン時計／シチズン埼玉／シチズンシービーエム／シチズンTIC／シチズン東北／シチズン物流サービス／シチズン平和時計／シチズン電子／シチズン電子タイメル／シチズン電子八戸／シチズン電子船引／シチズンファインテックミヨタ／シチズン・システムズ／シチズンマシナリー／シチズンセイミツ／シチズンセイミツ鹿児島／シチズン狭山／シチズン夕張／シチズンプラザの計21社

【海外】
CITIZEN DE MEXICO／ROYAL TIME CITI／CECOL／C-E(DEUTSCHLAND)／C-E(HONG KONG)／C-E(SINGAPORE)／CITIZEN ELECTRONICS(CHINA)／CITIZEN ELECTRONICS(NANJING)／CITIZEN ELECTRONICS(SUZHOU)／FIRSTCOM ELECTRONICS／XUNKE ELECTRONICS／TECHNO RICH LCD FACTORY／CIMEO ELECTRONICS DEVICES(SUZHOU)／GUANZOU MOST CROWN ELECTRONICS／MASTER CROWN ELECTRONICS(WUZHOU)／CITIZEN SYSTEMS(JIANGMEN)／CITIZEN MACHINERY ASIA／CITIZEN MACHINERY EUROPE／WALOP HUA DU FACTORY／WALOP DA WANG SHAN FACTORYの計20社

環境会計の集計範囲

上記国内グループ会社21社

環境配慮型製品の充実

シチズングループは、製品が環境に与える影響を強く認識し、信頼性や安全性と同様に、製品の環境品質の向上に努めています。

環境配慮型製品の拡大への取り組み

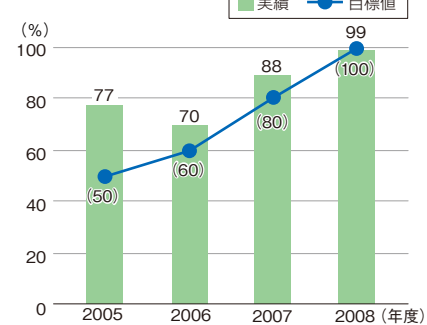
シチズングループでは、「環境配慮型製品」への取り組みを進めています。開発段階から多項目の環境製品アセスメント（評価）を実施し、「省資源・省エネルギー」「再資源化（リユース・リサイクル）」「長期使用性」「環境保全性（有害化学物質管理）」「環境情報の提供」「包装材」などの評価基準を、すべて満たした製品を環境配慮型製品に認定しています。2008年度からは、さらに厳しい視点でアセスメントを実施する「スーパー環境配慮型製品」の評価基準を設けて、取り組みを進めています。

●環境配慮型製品の割合の推移

シチズングループでは、新規モデルに占める環境配慮型製品の割合を2008年度中に100%にすることを目標に取り組んできました。本格的に取り組みをスタートさせた2005年度以来増加し、2008年度は99%の実績となりました。

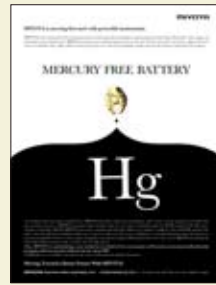
歩数計 TW700

新規モデルに占める環境配慮型製品の割合の推移

環境配慮型製品の評価基準
http://www.citizen.co.jp/social/kankyo/ecolabel.html

事例紹介　シチズン時計

水銀レス電池への全面切り替え

米国メイン州では2011年より水銀を使用したボタン電池、および電池を組み込んだ製品の販売が禁止されます。環境対応への企業姿勢として、2008年末までにクオーツ式ムーブメント、および完成時計に組み込まれるボタン電池を全面的に無水銀化することに決め、すでに2009年1月生産分より実施しています。

光発電時計エコ・ドライブは当初から水銀を使用していませんが、今回の全面無水銀化は、エコ・ドライブ以外の完成時計、Q&Qブランド、ライセンスブランドにおいても適用されています。外販ムーブメントは、2005年に業界ではじめて無水銀電池を搭載して販売を始めましたが、今回の取り組みにより、すべての有水銀電池を無水銀電池に切り替えたことになります。

「EURO STAR」誌に掲載した水銀レス電池への全面切り替えの広告

エコプロダクツ2008に出展

シチズングループは、「エコプロダクツ2008」に出展しました。今年はシチズンの環境に対する取り組みの紹介のみにとどまらず、来場者の方々とのコミュニケーションを心がけたエコアクションを実施しました。

エコプロダクツ展
http://www.citizen.co.jp/social/kankyo/ecoproducts-exhibition.html

事例紹介　シチズン電子

グリーン調達の推進

環境配慮型製品の実現への重要事項として、環境品質（製品への有害化学物質の非含有）の保証に取り組んでいます。有害化学物質を『入れない』『使わない』という、源流管理を基本とした方針のもと、とくに設計段階では「グリーン部材のみ」の採用」、調達段階では「グリーン部材のみ」を、「グリーン取引先のみ」から調達するように推進してきました。このために、2003年には3つの管理基準を構築し、運用をスタートさせました。部材データ、取引先データなどのデータベースシステムの導入、蛍光X線分析装置を用いた調達部材の定期的な検証の導入、法規制とお客様の要求への対応についての学習会などを、適時実施してきました。これらの活動を通して、環境品質成果を挙げ、お客様から高い評価をいただいてきました。

当面のREACH規則の対応も含め、今後も法規制やお客様の要求に適切に対応ができるよう取り組んでいきます。

REACH規則の学習会

LCAへの取り組み

シチズングループでは、環境負荷の把握と低減を促進するため、製品の企画検討、設計変更、工程改善などにLCAデータを算出し、活用をめざしています。

LCAの取り組み
http://www.citizen.co.jp/social/kankyo/lca.html

有害化学物質の削減

環境配慮型製品を提供するシチズングループでは、製造工程でも有害化学物質の全廃、削減、代替をめざした活動を、国内外で続けています。

有害化学物質の使用量の削減

シチズングループでは、2003年度よりさまざまな部品の製造工程で使用していた、塩素系有機溶剤や代替フロン（HCFC類）の使用量削減に取り組み、工程ごとに最適な代替品の調査を進め、生産工程の変更や新規設備を導入してきました。現在では、シアン化合物の代替化を重点対策として推進しています。

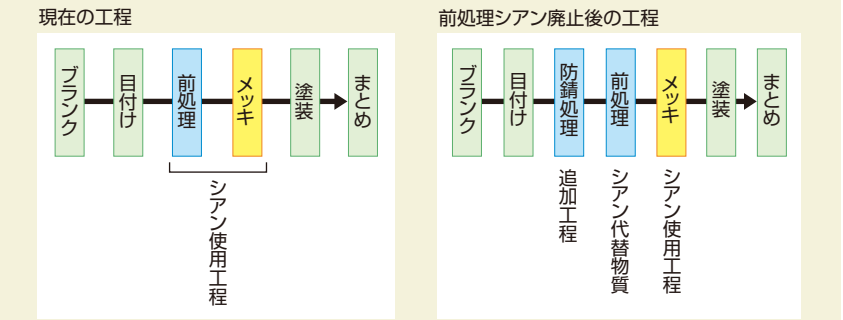
事例紹介　シチズンセイミツ

中国工場でのシアン使用量削減の取り組み

シチズンセイミツの外装事業部では、2004年からシアン化合物の削減活動を行っています。シアン化合物は、その約70%が金メッキ、銀メッキ、金銅合金メッキに使用するメッキ液とその補充液であり、残りの30%がメッキ前の金属表面の活性処理（前処理）に使用するものです。しかし、シアンメッキ液を代替できるものは現在ありません。国内工場では前処理用シアンの代替化は終了し、切り替えが既に完了しています。

また中国工場WALOPの金属文字板の前処理工程ではシアン化合物を年間に約300kg使用しています。防錆工程を追加するなど実験段階での検証は一旦終了しましたが、切り替えにあたっては排水工事が必要で、ライン編成を一斉に変える必要があります。経済環境を考慮して2009年度中に実施を予定しています。

現在の工程

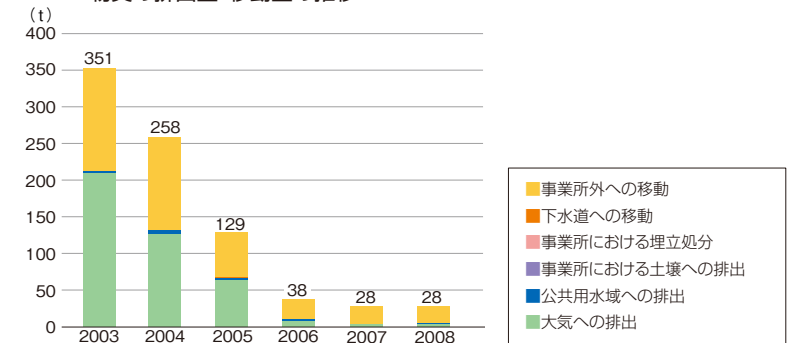
前処理シアン廃止後の工程

PRTR法※への対応

PRTR物質の届出はグループ各社ごとに行っています。2008年度のシチズングループ全体の届出状況は右表のようになりました。届出物質の数は6物質で、取扱量は2007年度より1トン増加し約42トンになりました。また、排出・移動量は2003年度の351トンから2008年度は28トンへと92%減少しました。PRTR法の改正により届出対象物質数が354物質から462物質へと変わりました。今後は購入品について改正後のPRTR物質を含有しているかの調査を行い、改正PRTR法への対応を行います。

※PRTR法：有害性のある化学物質がどのような発生源からどれくらい環境中に排出されたか、あるいは廃棄物に含まれて事業所の外に運び出されたかというデータを、国、事業者などの機関が把握・集計・公表する法律（化学物質排出把握管理促進法）

PRTR物質の取り扱い量と排出量・移動量(2008年度)　（単位：t）

化学物質名	取り扱い量	排出量				移動量	
		大気への排出	公共用水域への排出	事業所における土壌への排出	事業所における埋立処分	下水道への移動	事業所外への移動
キシレン	13.4	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0	4.6
ニッケル化合物	11.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.9
フッ化水素およびその水溶性塩	11.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	8.6
ビスフェノールA型樹脂エポキシ樹脂（液状）	3.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
トルエン	1.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0
無機シアン化合物	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	41.8	2.8	0.6	0.0	0.0	0.0	24.1

PRTR物質の排出量・移動量の推移

地球温暖化ガスの削減

地球温暖化は、環境問題のなかでも大きな課題となっています。シチズングループは、エネルギー使用量削減のためにグループ全体でさまざまな取り組みを行っています。

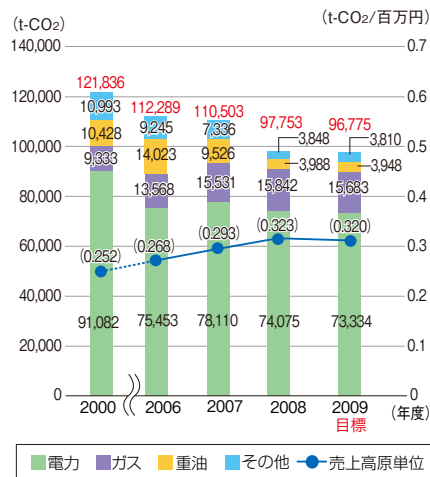
地球温暖化ガスの排出量削減

シチズングループではCO_2排出削減を効率的にかつ着実に進めるため、「エネルギー削減分科会」を設置し、各事業所の事例を発表しあって、互いに有効な活動を取り入れながら省エネ活動に努めています。

2008年度は、グループ全体のCO_2排出量を「売上高原単位で2007年度比1%削減」「総量2007年度比1,500トン削減」という目標に対し、経済の悪化のため総量では12,500トンの大幅な減少となりましたが、売上高原単位では10%の増となりました。なお総量では2000年度比20%の減少となっています。

2009年度は、グループ全体で総量1,500トン削減および売上高原単位1%削減をめざします。

CO_2以外の温室効果ガス(5ガス)については、CO_2換算で、2006年度679トン、2007年度575トン、2008年度337トンとなりました。

シチズングループのCO_2排出量推移

事例紹介　シチズンファインテックミヨタ

「地球温暖化ガスの削減」(燃料転換の実施)

御代田町地域新エネルギービジョン策定事業にあわせた燃料転換を実施しました。経済産業省および環境省による、燃料転換推進事業の補助金を受け、2007年度より、一部の灯油燃焼設備を都市ガスに切り替える工事を行いました。

実施内容としては、ガス管の敷設、老朽設備更新、バーナー※改造などです。2007年度と比較して、目標削減量934t-CO_2を上回る約1,888t-CO_2(2月現在)の削減量を達成しました。

吸収式冷凍機の更新

※バーナー:ガスあるいは気化させた液体燃料などを空気と混合させ高温を得る装置

事例紹介　シチズン夕張

新空調方式の導入

2008年10月より稼働した新工場に省エネルギーを目的として、空調システムに置換換気空調システムを導入しました。

従来の空調システムのように、部屋全体の空気をかき混ぜる方式(混合空気方式)と異なり、排熱を拡散させることなく効率的に除去する空調方式(置換換気方式)です。これは、工場内の工作機械により発生する排熱の上昇気流を利用し、暖かい空気を下から上に静かにもち上げて、換気(空調)を行います。

空調に必要な循環風量は減少でき、送風機の動力を抑えることができます。また、積極的に外気を導入し、冷凍機の稼働時間を少なくしています。なお現在は、効果算出のため、データを収集中です。

【従来の混合空気方式】

【置換換気方式】

事例紹介　シチズン電子

オフィスでの省エネ

約10年前から環境管理活動の一環として、省エネ活動の定着化を図ってきました。オフィスエリアでは、当初から昼休みの消灯、JIS照度基準に照らしあわせた間引きなどを実施してきました。最近では、蛍光灯カバーへの反射板の設置(照射の効率化)、建物の南側の窓ガラスへの遮光シールの貼付(断熱効果)なども行い、省エネに成果をあげています。

また、低消費電力・長寿命・水銀レスという環境にやさしい照明用のLEDを開発し、製造・提供しており、シチズン電子製のLEDを使用した照明は本館エントランス、構内などに導入しています。今後もLED照明化を進め、省エネを加速していきます。

構内LED照明

資源の有効活用と廃棄物の削減

工場からオフィス、社員食堂に至るまで、あらゆる職場で廃棄物削減活動を進めています。廃棄物を減らすとともに、再資源化を進め、循環型社会をめざします。

廃棄物削減活動の推進

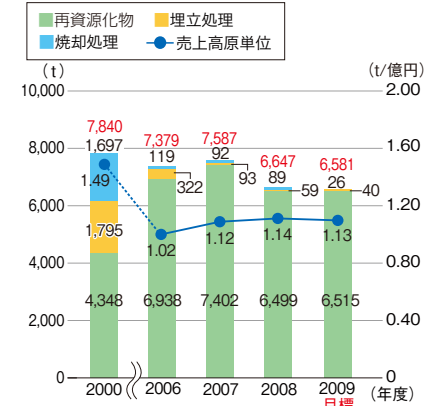
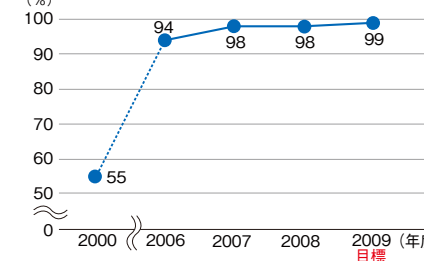
循環型社会の形成に寄与するため、廃棄物となるごみをゼロにする活動に取り組んでいます。

2008年度は、グループ全体で「廃棄物量を売上高原単位2007年度比1%削減」、「再資源化率98%」を目標に活動しました。

その結果、グループ全体で再資源化率は98%となりました。国内では13事業所がごみゼロ(再資源化率99%以上)を達成しました。

廃棄物の削減については、経済環境のため廃棄物総量※1で750トン減少しましたが、売上高原単位では3%増となりました。

2009年度は、グループ全体で再資源化率99%以上(ごみゼロ達成)、また廃棄物総量1%削減(売上高原単位)をめざして活動を続けていきます。

シチズングループの排出物量※2の推移

シチズングループの再資源化率の推移

※1:廃棄物総量 = 産業廃棄物量 + 一般廃棄物量
※2:排出物量 = 産業廃棄物量 + 一般廃棄物量 + 有価物量

事例紹介　シチズンマシナリー

鍛造材への切り替え

シチズンマシナリーのNC自動盤シンコムに使われる部品を製造する旋削工程において、加工工数削減と切粉の削減を目的として加工素材の鍛造化(金属を加熱しプレスで成型する)を実施しました。

従来は丸鋼の素材を使用していたため、重量の半分を切粉として廃棄していましたが、素材を鍛造化することにより完成品に近い形状から加工を開始することができるようになりました。購入する材料の重量は6.3kgから3.7kgに41%削減することができ、加工時間も1個につき4分の短縮ができました。

以前から鍛造化の構想はありましたが、加工費が高く実現できませんでした。しかし近頃の材料費高騰により丸鋼と同等な金額で調達することが可能となりました。他機種との部品共通化等により400個/月の使用するため、約1t/月の切粉削減と26時間/月の工数短縮の効果があります。

素材鍛造化による切粉削減

事例紹介　シチズン狭山

再資源化率100%を達成

シチズン狭山では、ごみゼロを目標に再資源化活動に取り組み、排出物処理費用の削減にも効果を挙げました。

プラスチック類については、各職場へ分別方法の説明を徹底し細分化することができました。また金属、基盤、プラスチック、電線類などが混在した複合品については、今までは埋め立て処分を行っていたものを、各職場に極力解体し分別するよう協力を求め、マテリアルリサイクルにすることができました。処理業者については廃棄物削減分科会の情報により再選定をすることで、90品目中35品目の排出物について有価売却とすることができました。その結果、2008年度は再資源化率は100%を達成することができ、また処理費用は2004年度と比較し30%の削減(年間約80万円の削減)となりました。今後も有償引取りから有価売却へのシフトを強力に進めていきます。

さまざまな部材が混在する複合品の例

物流での取り組み

シチズングループでは物流の効率の向上と資材の削減に取り組んでいます。

物流での取り組み
http://www.citizen.co.jp/social/kankyo/distribution.html

第三者意見

評論家
シチズン・オブ・ザ・イヤー選考委員会
委員長
五代　利矢子氏

世界同時不況という厳しい経済環境の中、企業が如何にして社会的責任を果たしていくか、これを解くキーワードは「本業を通じてのCSR活動」と「従業員ひとりひとりの認識と実践」にあると考えます。その意味からも、担い手としての従業員各自が、自分なりの「CSR」を書いたボードを掲げている見開きは説得力があり、続いて、グループ概要、製品紹介、トップメッセージと全体像を、カラフルに明快に紹介していく展開は爽やかで、テンポがあります。

グループのコアとも言うべき「ものづくり」に関しては、7項目の環境基準をクリアした2008年度新モデル「環境配慮型製品」は99%を達成し、2009年度には100%完遂を目指すと共に、更なる上位基準を新設するという意気込みを評価します。

消費電力の少ない電子ペーパーセル、発光効率の高い照明用LED等々「ミクロの世界で培われた高精度の技術力」を活かした環境対応製品は、グループの今後の方向性を示唆しています。

ただ、シチズンの代表的製品エコドライブの特集では、上段は刈り込んで、下段の担当者コメントをクローズアップする方が主旨が活きるように思いました。内容を詰め込みすぎず、簡潔な文章で、「読んでもらう工夫」がほしいところです。

CSR活動の取組み状況では、全社中39社の調査でコンプライアンス意識や、CSRホットライン認知度に大幅な向上がみられ、また課題ごとに各社の実施状況を、多様な角度からアプローチしており、総じて今回は「目標」と「達成度」を目に見える形で示そうとする努力が紙面から伝わってきました。

今後コアとなるべき従業員に対する課題ですが、「多様性の尊重」という人を大切にする人材育成方針は、スキルの習得のみならず、自由闊達な風土から生まれる新技術を育む基盤醸成であり、社の将来を見据えた取り組みとして期待しております。

株式会社インテグレックス
代表取締役社長
秋山　をね氏

昨年、CSR報告書は、企業理念実現のための取り組み（PDCA）に対するコミットメントの発信ともいえると書きました。本年も同じ視点から意見を述べたいと思います。

1.評価したい点

昨年同様、事業活動のすべてで、「市民に愛され市民に貢献する」という企業理念に基づき取り組みを進めています。今年は、取り組み状況を4点で総括すると共に、企業行動憲章に即したCSRの課題と取り組み状況の表も復活、活動のPDCAを回していることがわかります。また、グループ各社の取り組み紹介も増え、グループとしての取り組みの広がりが感じられます。

環境経営では、昨年に続き、今年度の目標、実績、評価、次年度の目標が示され、PDCAを回しながら継続的に取り組む姿勢が評価できます。海外での取り組み事例も紹介され、各製造拠点で取り組みを進めていることがわかります。

2.一層の努力や改善を求めたい点

昨年と比べ、よりPDCAを意識したつくりになっていますが、環境経営のように、取り組みの評価と次年度の目標まで一覧表にすると、流れがより明確になります。環境経営の目標未達成項目については、特に、取り組みの見直し（Check）と改善（Act）が重要です。

海外での課題や取り組みについては、努力が感じられますが、一層の情報が欲しいところです。これについては、中国拠点でCSRミーティングを開催し、各拠点の実情を把握、今後の進め方を検討されたとのことなので、来年の報告を期待します。

3.今後への期待

「市民に愛され市民に貢献する」は、まさに社会最適企業としてのコミットメントであり、今後は、社会最適企業だけが持続的に成長できると考えられます。これからも、「全員参加」という全社最適で、地球と人にやさしいものづくりを続けられることを期待します。

WEB掲載情報

シチズングループのCSR活動の全容をご理解いただくために、
冊子で報告しきれなかった取り組みを含め、網羅的に報告しています。

http://www.citizen.co.jp/social/index.html

シチズングループについて

シチズンの製品・技術はこんなところに使われています

トップメッセージ 未来の変化に対応できる人と組織をつくる

特　集

- シチズングループの地球と人にやさしいものづくり
- 光発電時計エコ・ドライブがお客様に届くまで

CSRの基盤

- シチズングループのCSR
- コーポレートガバナンス
- コンプライアンス
- リスクマネジメント
- CSR活動のあゆみ

社会とシチズン

- お客様とシチズン
- 株主・投資家とシチズン
- お取引先とシチズン
- 従業員とシチズン
- 地域社会とシチズン
  - 社会貢献活動の基本方針
  - シチズン・オブ・ザ・イヤー
  - シチズングループの社会貢献活動

環境とシチズン

- 環境社会ビジョン
- 環境方針
- シチズングループの環境経営
- 環境マネジメント
  - ISO14001認証取得状況
- 事業活動と環境負荷
  - シチズングループの環境負荷状況
  - 環境会計
  - 日本におけるシチズングループの環境負荷の位置づけ
- 環境配慮型製品の充実
  - 環境配慮型製品の評価基準
  - エコプロダクツ展
  - LCAの取り組み
- 有害化学物質の削減
- 地球温暖化ガスの削減
- 資源の有効活用と廃棄物の削減
  - 物流での取り組み
- 公表情報
- グリーン調達のお知らせ

CSRニュース

CSR報告書（環境報告書）

従業員の「あなたにとってCSRとは?」